

第4次 岡崎市地域福祉計画

実践編



令和4年3月

岡崎市／社会福祉法人 岡崎市社会福祉協議会

ごあいさつ

私たちを取り巻く環境が目まぐるしく変化する現代では、市民の抱える悩みや生きづらさが多様化するとともに、新型コロナウイルスの感染拡大も重なり、社会的な孤独・孤立の問題が深刻さを増しています。そのような中、誰もが幸せに暮らすことができる「まち」を目指すには、お互いが手を取り、支え合い、共に歩いていく地域共生社会を実現していくことが重要であると考えています。



この地域共生社会の実現を目指し、様々な施策に取り組んでいくため、「第4次岡崎市地域福祉計画」を策定しました。地域福祉の推進は、自助や地域の助け合いである互助に押し付けるのではなく、また、行政の公助だけで推し進めるのではなく、市民や事業所、市民活動団体、行政が一つにつながり、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創り上げていくことです。「ここで暮らして良かった」と実感できる「まち」となるよう、「我が事・丸ごと」の地域づくりを推進してまいりますので、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本計画の策定に当たり、ご尽力いただきました岡崎市地域福祉計画推進委員会の皆様を始め、多くの市民や事業所、団体の皆様の真摯な取り組み、また、貴重なご意見をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

令和4年3月

岡崎市長 中根 康浩

岡崎市社会福祉協議会では、第3次地域福祉計画の推進と第4次地域福祉計画の策定に向け、計画期間中からこれまでとは過ごし方を大きく変えてまいりました。

福祉座談会「ミソ端会議」では、学区ごとに策定した「学区別計画」について、毎年進捗管理のためPDCAサイクルを繰り返してきました。また「地域福祉計画事業検討部会」を新たに設け、計画内容を推進するための取組の提案や、計画策定プロセスの見直しを図ってまいりました。



今期の計画は、これまで以上に多くの地域住民が策定に携わっていただいたその結晶であり、ご協力いただきました皆様に深く敬意と感謝申し上げますとともに、今後の計画期間では、より一層地域住民の皆様と対話し、地域の課題解決に向けた取組を一緒に悩み考え、活動につなげていきたいと思っております。

結びに、岡崎市がより安心して暮らせる福祉のまちとなるため、計画内容が着実に実行されるよう、本会も地域福祉を推進する組織として邁進してまいります。

令和4年3月

社会福祉法人 岡崎市社会福祉協議会長 太田 俊昭

目 次

第1章 岡崎市の現状	1
1 統計データ	2
2 市民アンケート調査結果	5
3 団体ヒアリング調査結果	10
第2章 施策の展開	13
1 基本理念	14
2 基本目標	15
3 施策体系	16
4 取組事例紹介	17
第3章 学区別計画	31
学区別計画の策定・推進	32
福祉座談会（ミソ端会議）の開催概要	32
学区別計画の見方	33
1 梅園学区	34
2 根石学区	36
3 六名学区	38
4 三島学区	40
5 連尺学区	42
6 広幡学区	44
7 井田学区	46
8 愛宕学区	48
9 常磐南学区	50
10 常磐東学区	52
11 常磐学区	54
12 竜美丘学区	56
13 羽根学区	58
14 岡崎学区	60
15 福岡学区	62
16 城南学区	64
17 上地学区	66
18 小豆坂学区	68
19 男川学区	70
20 美合学区	72

21	河合地区（生平学区・秦梨学区）	74
22	緑丘学区.....	76
23	竜谷学区.....	78
24	藤川学区.....	80
25	山中学区.....	82
26	本宿学区.....	84
27	奥殿学区.....	86
28	恵田学区.....	88
29	細川学区.....	90
30	岩津学区.....	92
31	大樹寺学区.....	94
32	大門学区.....	96
33	矢作東学区.....	98
34	矢作北学区.....	100
35	矢作西学区.....	102
36	矢作南学区.....	104
37	北野学区.....	106
38	六ツ美北部学区	108
39	六ツ美中部学区	110
40	六ツ美南部学区	112
41	六ツ美西部学区	114
42	豊富学区.....	116
43	夏山学区.....	118
44	宮崎学区.....	120
45	形埜学区.....	122
46	下山学区.....	124

第 1 章

岡崎市の現状

1 統計データ



(1) 人口・世帯

総人口 **385,823** 人

日本人 **373,813** 人

外国人 **12,010** 人

男性 **195,816** 人

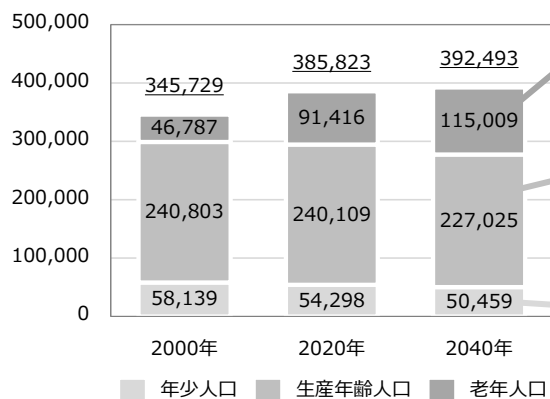


女性 **190,007** 人



資料：住民基本台帳（令和3年4月1日現在）

■年齢3区分別人口の推移・推計 (人)



※2000年と2040年を比較

2.46 倍



2020年では
総人口の
23.7 %

生産年齢人口

0.94 倍



2020年では
総人口の
62.2 %

年少人口

0.87 倍

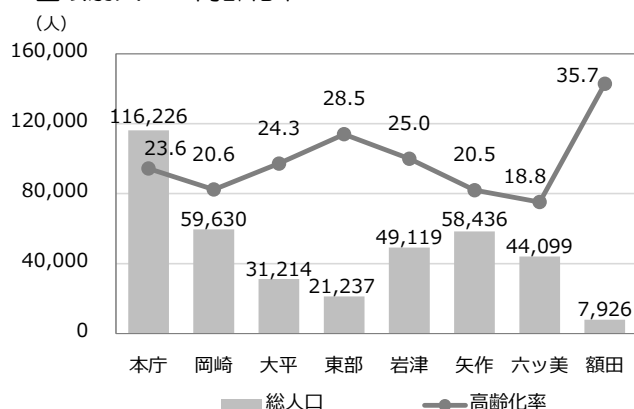


2020年では
総人口の
14.1 %

※年少人口は0～14歳の人口、生産年齢人口は15～64歳の人口、老年人口は65歳以上の人口をそれぞれさします。

資料：国勢調査・岡崎市人口推計報告書

■圏域別人口・高齢化率



(%)

総世帯数 令和2年

156,619 世帯

平成12年
114,517 世帯

1世帯あたりの人員数

平成12年
3.02 人

令和2年
2.46 人

資料：住民基本台帳（平成31年4月1日現在）・国勢調査

- 全国的な傾向と同様に少子高齢化や核家族化が進行しています。
- 外国人人口が総人口の約3%を占めています。
- 圏域ごとに人口や高齢化率に差があることがうかがえます。

(2) 子ども・子育ての状況

合計特殊出生率

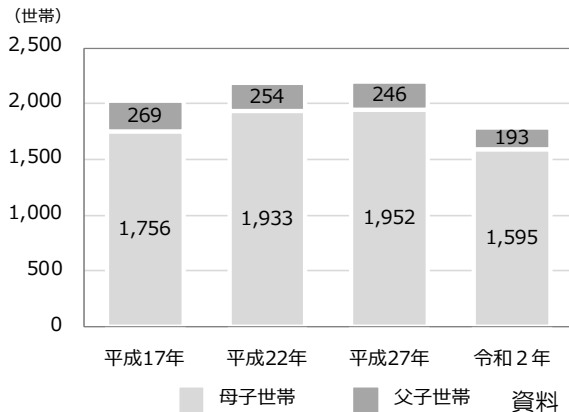
人口維持に必要な数 **2.07** >

岡崎市 **1.63**



資料：保健企画課（平成 30 年）

■母子世帯・父子世帯数の推移



子育て世帯数

令和2年
33,195 世帯

資料：国勢調査

子育て世帯のうち、

ひとり親世帯は、約 **5 %**



児童扶養手当 対象児数

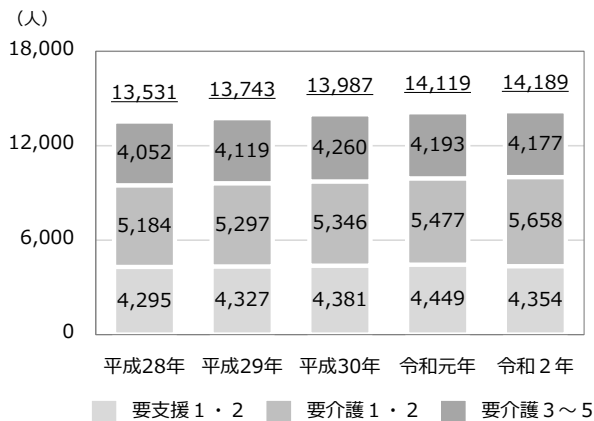
平成 30 年度
39,808 人

資料：子ども育成課・障がい福祉課

○合計特殊出生率は人口を維持するために必要な数である 2.07 を下回っています。
○安心して子どもを産み、育てることができる環境を整える必要があります。

(3) 高齢者の状況

■要介護度別第1号認定者数の推移



要介護認定率

令和2年
15.7 %



高齢夫婦のみの世帯数

※夫 65 歳以上、
妻 60 歳以上の世帯

平成 12 年
6,897 世帯

資料：国勢調査

令和2年
17,376 世帯



ひとり暮らしの高齢者数

平成 12 年
4,788 人

資料：国勢調査

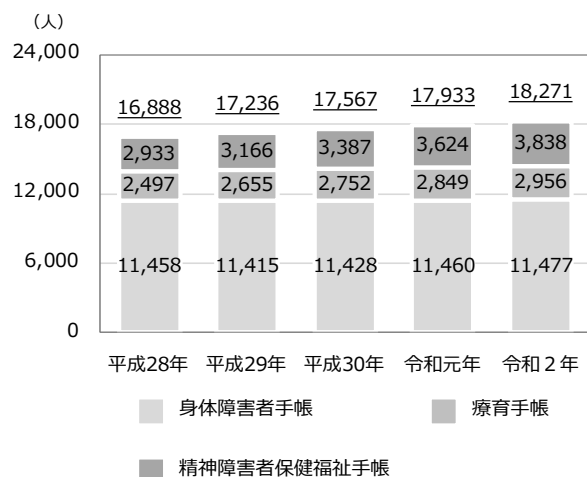
令和2年
12,984 人



○支援や介護を必要とする高齢者が増加しています。
○高齢夫婦のみの世帯やひとり暮らしの高齢者が増加しています。

(4) 障がい者の状況

■障害者手帳所持者数の推移



資料：障がい福祉課・健康増進課（各年4月1日現在）

特定医療費（指定難病）受給者証所持者数

平成28年 **2,177** 人 → 令和2年 **1,918** 人
資料：健康増進課（各年3月31日現在）

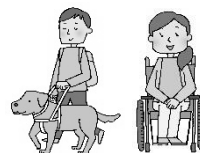
小児慢性特定疾病医療費受給者証所持者数

平成27年度 **294** 人 → 令和元年度 **378** 人
資料：健康増進課

障がい福祉サービス支給決定者数

平成27年 **2,138** 人 → 令和2年 **2,454** 人
資料：障がい福祉課（各年4月1日現在）

- 障害者手帳所持者数が増加しています。
- 障がい福祉サービスを利用する人が増加しています。



(5) その他支援を必要とする人や外国人の状況

生活保護受給世帯数（月平均）

平成10年度 **453** 世帯 → 平成30年度 **1,575** 世帯
資料：地域福祉課

自殺者数

令和2年 **66** 人

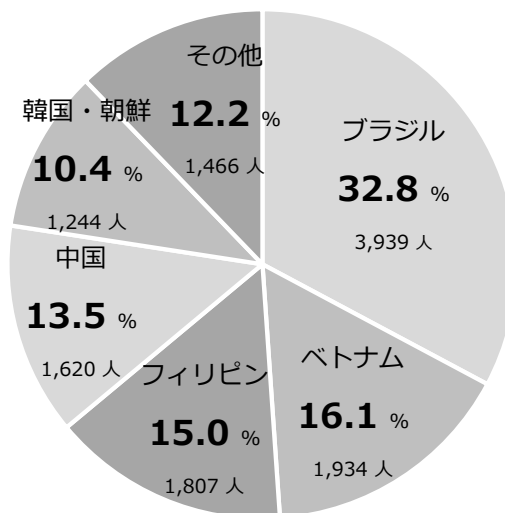
資料：地域における自殺の基礎資料



外国人人口

平成28年 **9,370** 人 → 令和3年 **12,010** 人
資料：企画課（各年4月1日現在）

■国籍別外国人人口



資料：企画課（令和3年4月1日現在）

- 市内には支援を必要とする人が多く住んでおり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、支援を必要とする人がさらに増加する可能性があります。

2 市民アンケート調査結果



(1) 概要

「第4次岡崎市地域福祉計画」策定の基礎資料とするため、市内在住の18歳以上の一般市民3,000人を対象に地域福祉に関する市民アンケート調査を実施しました。

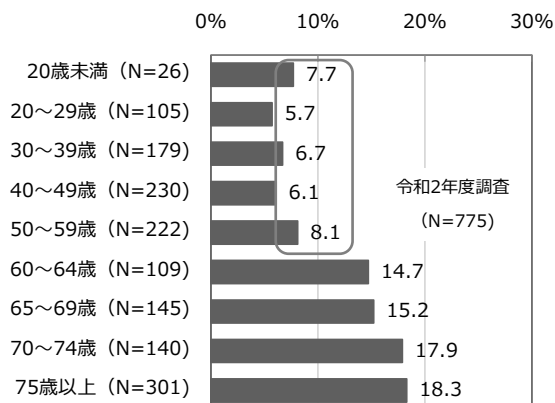
■市民アンケート調査の概要

区分	市民
調査対象	市内在住の18歳以上の一般市民
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和2年9月9日～令和2年9月25日
配布数（A）	3,000件
回収件数（B）	1,475件
回収率（B/A）	49.2%

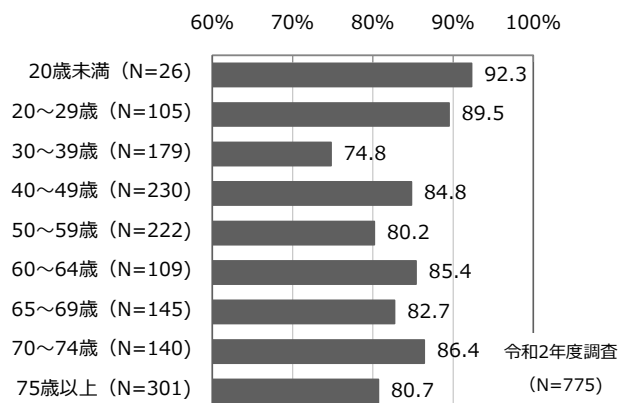
(2) 主な結果

① 近所づきあいについて

■近隣の人と日頃から助けあっている人



■近隣の人とのつきあいに満足している人

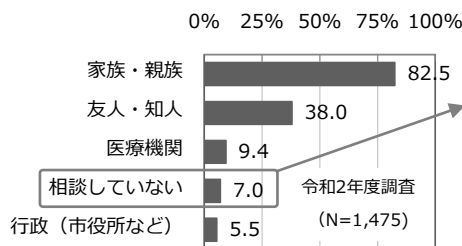


○若い年代で近所づきあいが希薄であることがうかがえます。

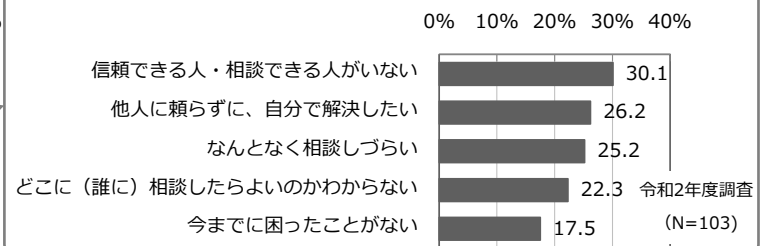
○年代ごとに望む近所づきあいの程度が異なっていることがうかがえます。

② 近所での助けあいについて

■困った時の相談先（上位5位を抜粋）



■相談していない理由（上位5位を抜粋）

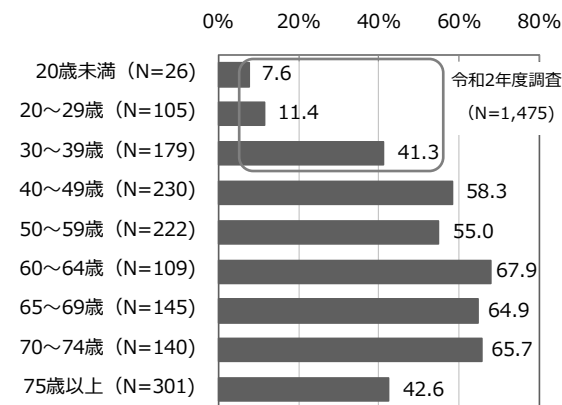


○行政（市役所など）への相談が1割以下となっています。

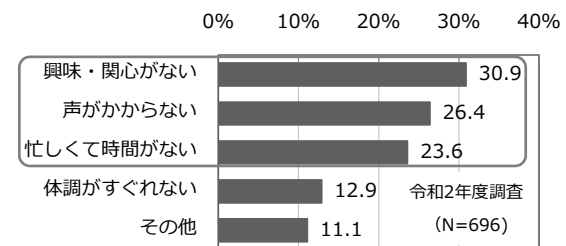
○相談できる人がいないことや相談しづらいこと、相談先がわからないことが理由で相談できていない人が一定数みられます。

③ 地域活動について

■地域内の行事や町内会活動に参加・協力している人



■参加していない理由（上位5位を抜粋）

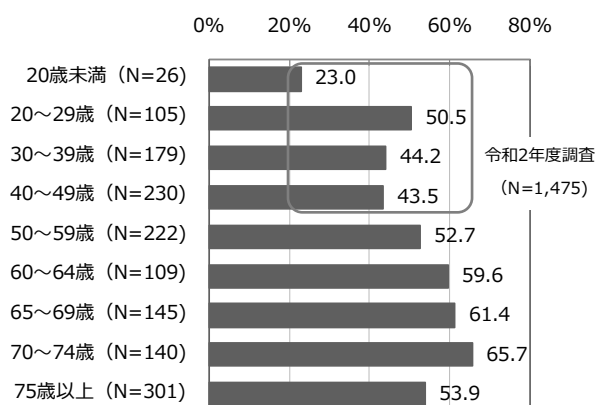


○若い年代で地域内の行事や町内会活動に参加・協力している人が少なくなっています。

○地域活動に参加・協力していない理由として、興味・関心がないことや多忙であることなどが挙げられています。

④ 福祉への関心について

■福祉に関心がある人



○若い年代で福祉に関心がない人が多いです。

⑤ 地域福祉に関することについて

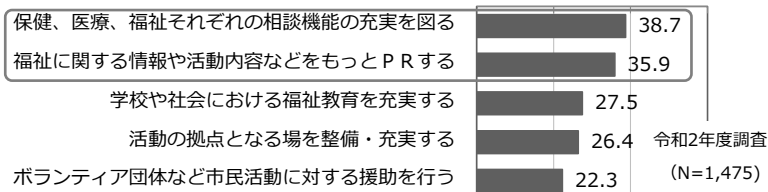
■岡崎市地域福祉計画を知っている人 ■地域の助けあいや福祉活動を進めるために必要なこと（上位5位を抜粋）

7.0 %

■コミュニティソーシャルワーカー（CSW）を知っている人

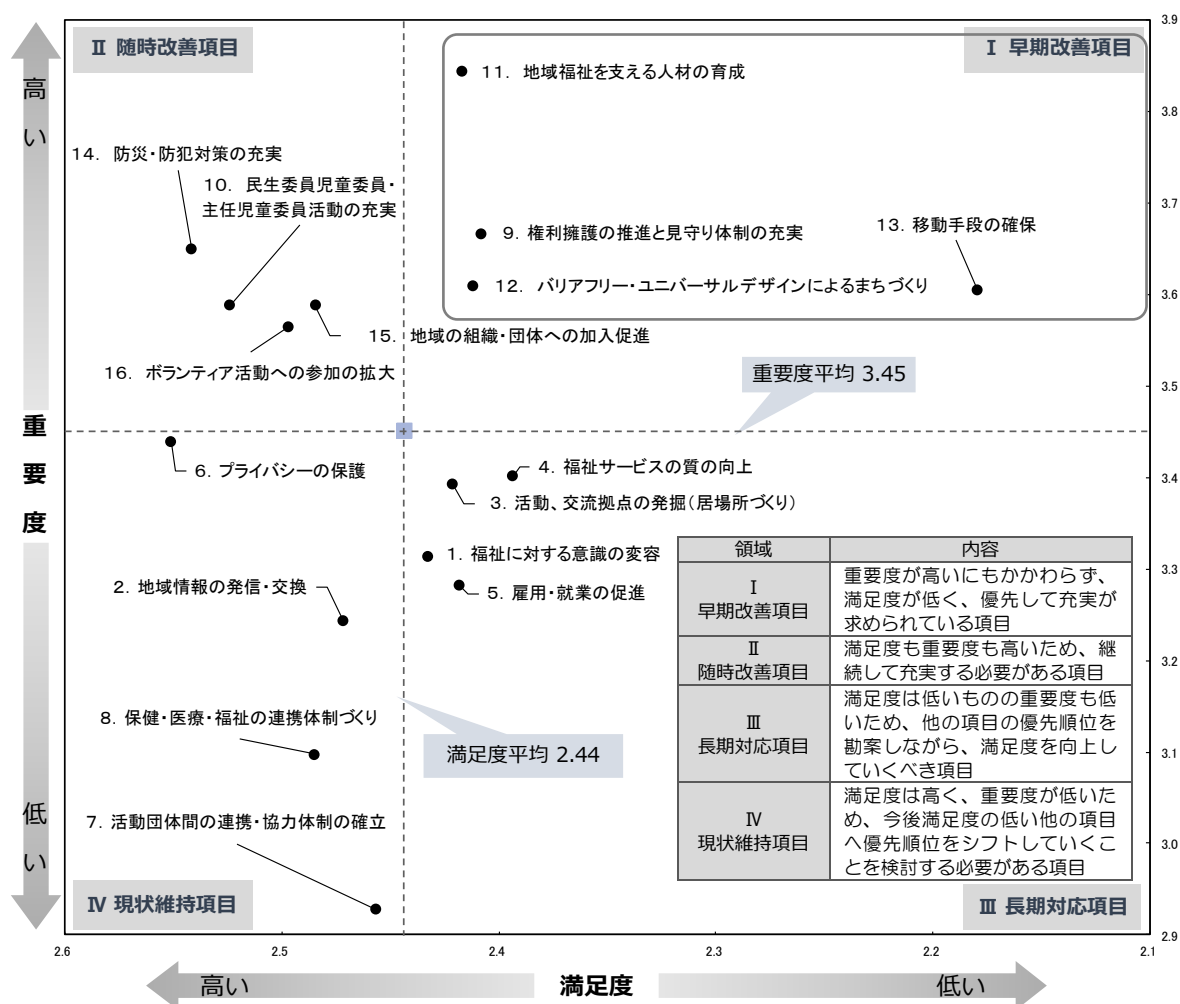
8.8 %

0% 20% 40% 60%



■岡崎市の地域福祉に関する取組の満足度・重要度

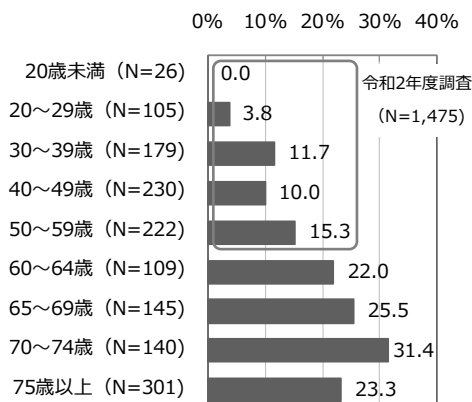
各分野の各項目を評価して散布図で表現しています。評価では、設問の4つの回答選択肢を点数化しています。点数は、満足度は「とても満足」の4点から「不満」の1点、重要度は「とても重要」の4点から「重要でない」の1点まで、それぞれ4段階評価としています。以上の点数を、「不明・無回答」を除く回答件数で除した、加重平均で平均値を算出しました。



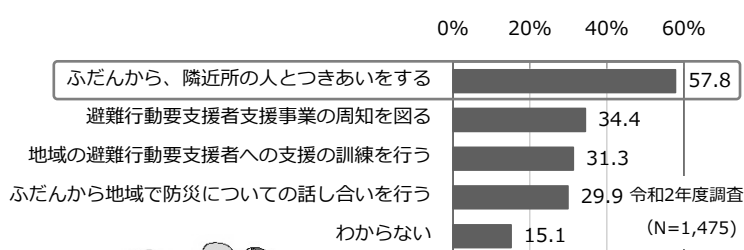
- 岡崎市地域福祉計画・コミュニティソーシャルワーカーの認知度が各1割以下となっています。
- 地域の助けあいや福祉活動を推進するため、相談機能の充実や情報発信が求められています。
- 移動手段の確保、地域福祉を支える人材の育成、権利擁護の推進と見守り体制の充実、バリアフリー・ユニバーサルデザインによるまちづくりが優先して充実が求められています。

⑥ 災害時の支援について

■災害時避難行動要支援者支援制度を知っている人



■災害時に支援ができるための取組（上位5位を抜粋）



○若い年代を中心に災害時避難行動要支援者支援制度の認知度が低くなっています。
○日頃からの近所づきあいにより、災害時に支援することができる関係づくりを進める必要があると考えている人が過半数を占めています。

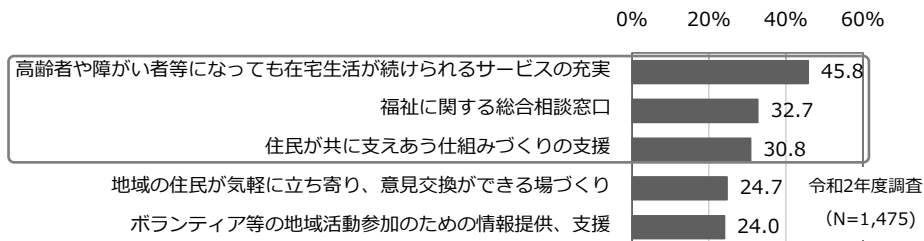
⑦ 社会福祉協議会について

■社会福祉協議会を知っている人

7.0 %



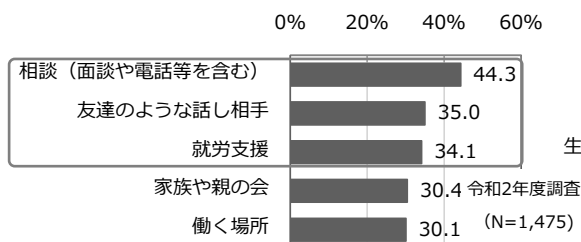
■社会福祉協議会に期待すること（上位5位を抜粋）



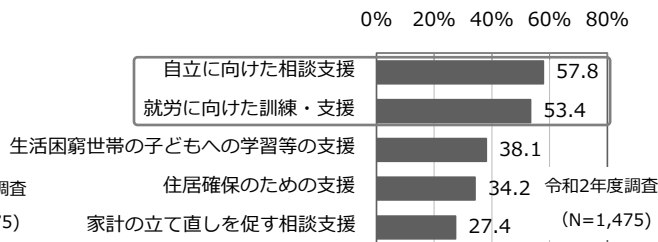
○社会福祉協議会の認知度が1割以下となっています。
○社会福祉協議会には、居宅サービスの充実や福祉に関する相談窓口の機能強化、地域福祉活動を推進するための支援が求められています。

⑧ 近年の福祉課題について

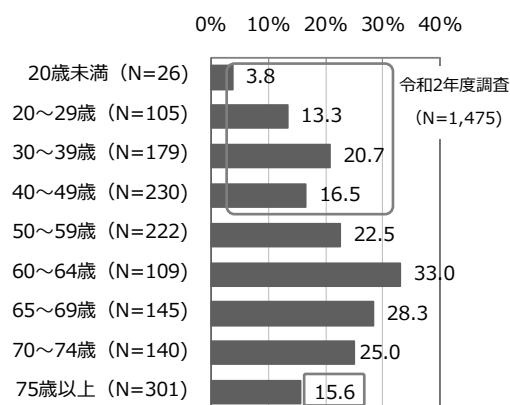
■ひきこもりの人を支援するために重要な施策（上位5位を抜粋）



■生活困窮者を支援するために重要な施策（上位5位を抜粋）



■成年後見制度を知っている人

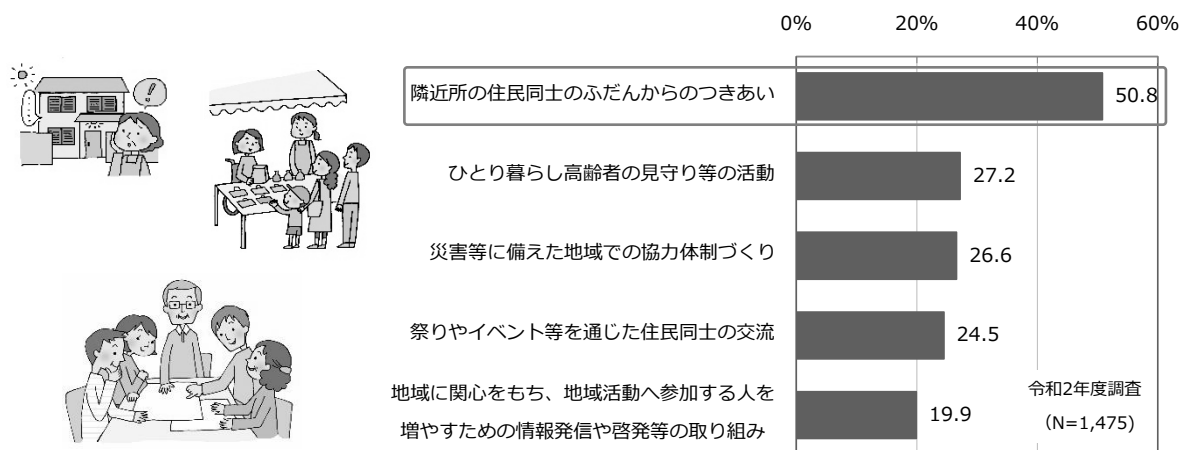


○ひきこもりの人や生活困窮者に対する支援として、相談支援や就労支援が求められています。

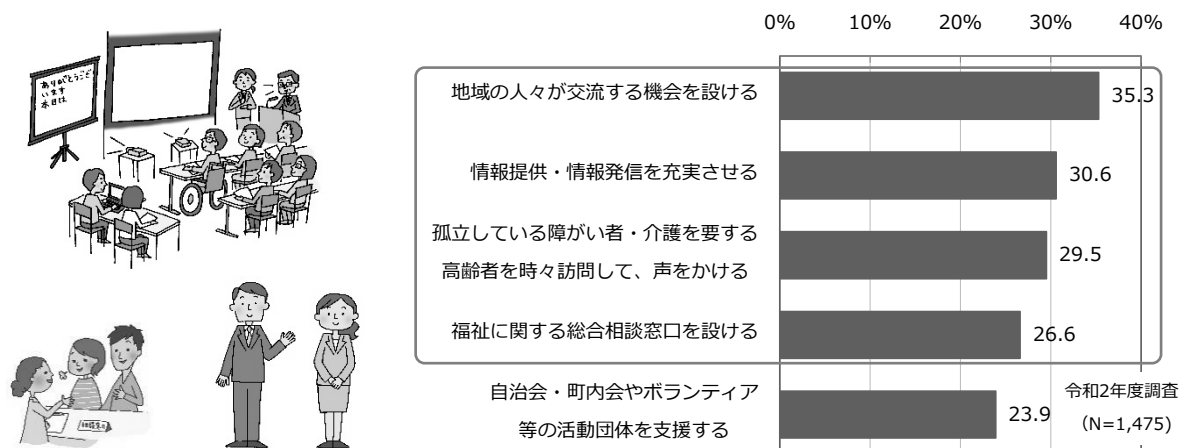
○若い年代や後期高齢者で成年後見制度の認知度が低くなっています。

⑨ 地域福祉全般について

■助けあい、支えあえる地域づくりのために地域として取り組む必要があること（上位5位を抜粋）



■助けあい、支えあえる地域づくりのために行政として取り組む必要があること（上位5位を抜粋）



○日頃からの住民同士のつきあいにより助けあい、支えあえる地域づくりを進める必要があると考える人が過半数を占めています。

○行政には、住民同士が交流する機会の提供や情報提供・発信の充実、支援を必要とする人への訪問、福祉に関する総合相談窓口の機能強化が求められています。

3 団体ヒアリング調査結果



(1) 概要

「第4次岡崎市地域福祉計画」策定の基礎資料とするため、市内で活動している団体を対象に地域福祉に関するヒアリング調査を実施しました。

■団体ヒアリング調査の概要

区分	団体
調査対象	市内で活動する福祉に関わる団体の関係者・代表者
調査期間	平成31年1月28日～令和2年10月13日

(2) 主な結果

① 活動を行う上で困っていることについて



子育て支援団体

- ・参加してくれる人が少ない。役員を務めたくない人が多い。
- ・みんなで集まって学んだり交流したりできる場所がほしい。
- ・活動の継続。財源がなく、個人負担も多い。個人頼りにならなくても継続して活動ができるようにしたい。



障がい者支援団体

- ・障害者手帳を取得しても、会員にならない人が増えてきている。
- ・新しい人が入ってこないため、役員の高齢化が進んでいる。
- ・役員の担い手がない。
- ・行政とのパイプ役としても重要な会。会を知ってもらいたい。



地域活動団体

- ・総代・学区福祉委員会・民生委員児童委員間の連携が必要だが、個人情報保護の観点から情報共有が難しい。
- ・子ども同士の地域での交流の場や機会が減少している。
- ・学区福祉委員会の認知度が低く、若い人が加入しない。



ボランティア活動団体

- ・ボランティア団体に登録するメリットが無くなってきている。
- ・ボランティア団体の活動内容を知ってもらいたい。
- ・核となる役員間の情報共有や話しあいが必要。
- ・役員となる人材の育成をする必要がある。

② 活動を行う上で感じる岡崎市の課題について



子育て支援団体

- ・子育て支援団体の認知度が低い。活動の情報が届いていない。
- ・子ども会の加入率が低下しており、子ども会の数が減少している。
- ・地域の子どもをみるという視点が無くなってきている。
- ・義務教育が終了すると子どもへの支援が途切れてしまう。



高齢者支援団体

- ・地域のつながりが希薄化している。
- ・地域づくりに関する事業の継続が難しい。
- ・老人クラブが存続の危機にある。
- ・8050 問題や経済的困窮を抱える世帯の増加がみられる。



地域活動団体

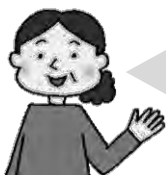
- ・学区により活動内容に差がある。
- ・ひきこもりや複合的な課題を抱えている世帯の相談先の把握が難しい上、どこに相談すればよいかわからない。
- ・コロナ禍で地域の居場所や活動が縮小している。

③ 課題を解決するために取り組むべきことについて



高齢者支援団体

- ・高齢者を定期的に見守る。
- ・隣近所で助けあう仕組みづくりや地域の「困りごと解決隊」の立ち上げ。
- ・地域で高齢者支援への協力者や理解者を増やす。
- ・地域組織において業務内容の整理や負担軽減策を検討する。



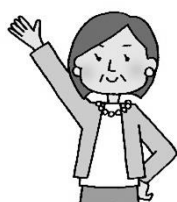
障がい者支援団体

- ・地域活動の場へ要約筆記者を派遣する。
- ・市民にヘルプマーク、耳マークを普及する。
- ・地域住民と障がい者がコミュニケーションを取る。
- ・地域の防災訓練に障がい者が参加する。



ボランティア活動団体

- ・各団体の得意なことを活かして、地域住民とともに活動する。
- ・学区福祉委員会と連携して、高齢者が活躍できる場をつくる。
- ・定期的に地域住民が防災について話しあう機会を設ける。
- ・地域の核となる人材の育成を行い、担い手を増やす。



地域活動団体

- ・子ども食堂のような活動や子どもを取り巻く課題を地域全体が理解し、地域住民みんなで創り上げる。
- ・地域住民同士が気軽に助けあえる活動や環境づくり。
- ・社会を明るくする運動を周知し、市民に積極的に参加してもらう。

(3) 結果のまとめ

団体ヒアリング調査で浮き彫りになった本市の課題を推進施策ごとにまとめました。それぞれの課題解決に向けて施策を推進します。

区分	内容
福祉啓発・福祉教育の推進 	○ 地域や団体で実施している活動が地域住民に知られていません。 ○ 地域のつながりが希薄化しており、地域ぐるみで子どもや高齢者を見守ることなどが無くなってきています。 ○ 地域住民が地域課題や福祉に関心をもち、理解を深める必要があります。
地域の交流・居場所づくり 	○ 地域住民が集い、交流する場や機会が求められています。 ○ コロナ禍において、地域の居場所や活動が縮小しています。 ○ 年齢や障がいの有無などに関わらず、地域で活躍することができる場づくりが必要です。
生活支援・相談支援の充実 	○ 義務教育が終了した後も継続して子どもへ支援することができるよう、切れ目のない支援が求められています。 ○ 地域で制度の狭間の問題の顕在化、生活課題の多様化・複雑化などがみられる一方、把握が難しい状況です。 ○ 制度の狭間の問題や生活課題が複雑化している場合の相談先について、団体の構成員も判断に迷うケースがみられます。 ○ 隣近所や地域で助けあう仕組みづくりが必要です。
連携体制の構築 	○ 総代・学区福祉委員会・民生委員児童委員などの地域活動や福祉を担う団体間で、情報共有が十分にできないケースがみられます。 ○ 団体間での情報共有や団体と地域住民の協働が必要です。
安心・安全な生活環境づくり 	○ 地域住民の地域の防災訓練への参加促進が必要です。 ○ 地域住民同士で防災について話しあうことが必要です。 ○ 犯罪の防止につながる活動の周知や地域住民に対する理解促進を行い、参加につなげる必要があります。
地域活動・福祉の担い手確保 	○ 地域や団体の活動への参加者が減少、固定化しており、団体数も減少しています。 ○ 地域や福祉に関心のある住民が活動に参加することができる仕組みが必要です。 ○ 地域や団体の役員が高齢化しており、地域の担い手を育成する必要があります。 ○ 地域や団体の役員や構成員の負担が大きくなっており、活動内容の整理・見直しが必要です。 ○ 地域や団体が活動するための財源が不足しています。 ○ 学区ごとで地域活動の状況に差がみられます。

第 2 章

施策の展開

1 基本理念

「地域共生社会」とは

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会（平成29年2月7日「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部決定）

地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進は、地域住民の暮らしに関わる地域生活課題への包括的・重層的な対応を地域づくりとあわせて進めることです。

社会的孤立や社会的排除をなくし、誰もが役割を持ち、お互いが支えあっていくことができる地域共生社会を創出することは、高い理想であるかもしれません。

しかしながら、誰もが主観的に幸せになってほしい、誰もが岡崎で暮らして良かったと思える「まち」でありたいという願いは強く、「第2次岡崎市地域福祉計画」から「みんなで築く ホッとなまち 生き生きと暮らせる 支えあいのまち」を基本理念に掲げて地域づくりを推進してきました。

「第4次岡崎市地域福祉計画」（以下、「本計画」という。）においても引き続きこの基本理念を掲げ、地域共生社会の実現に向けた挑戦を続けます。

■基本理念

みんなで築く ホッとなまち
生き生きと暮らせる 支えあいのまち



2 基本目標

（１）お互いを認め支えあう心を育て、地域のつながりを深めましょう

地域福祉についての周知、啓発により地域福祉活動へのきっかけづくりを行い、身近な手助けを必要とする人の声に気づくことができるような思いやりの心を育てていきます。また、地域での交流を深めたり、居場所づくりを通じて、地域のつながりの強化を図ります。

（２）安全で安心して暮らせる地域をつくりましょう

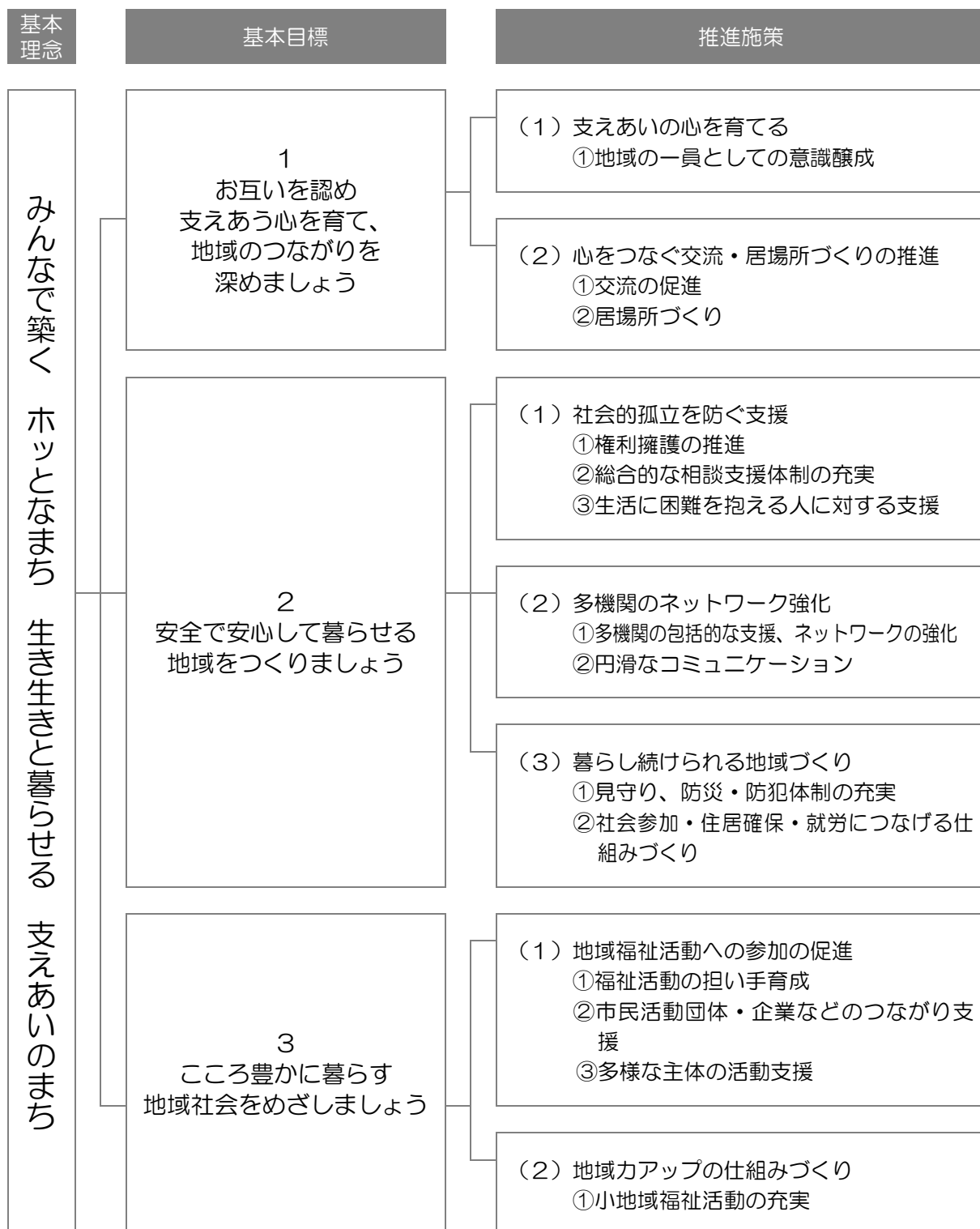
生活困窮や社会的孤立などの地域生活課題に対応した包括的な支援体制の構築や福祉サービスの適切な利用促進をめざすとともに、地域・市・社会福祉協議会の連携をはじめ、専門機関との連携体制の強化を図り、多様なニーズに応じた仕組みづくりに取り組みます。

（３）こころ豊かに暮らす地域社会をめざしましょう

地域での活動を維持するため、また、活動を次の世代に引き継いでいくため、福祉活動の担い手づくりや活動団体の体制強化の推進を図ります。

3 施策体系

※ 1. 地域福祉活動への参加の促進
① 福祉活動の担い手育成
② 市民活動団体・企業などのつながり支援
③ 多様な主体の活動支援



4 取組事例紹介

基本 目標

1

お互いを認め支えあう心を育て、
地域のつながりを深めましょう

(1) 支えあいの心を育てる

① ふれあい岡崎 福祉まつり ―＜一般市民対象＞

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

誰もが安心して暮らせる福祉ボランティアのまちづくり運動を永続的に推進するため、市民にボランティア活動の基盤づくりや福祉風土づくりの推進、ノーマライゼーション及びバリアフリーの啓発を図るイベントです。ボランティア団体の活動体験や福祉体験、社会貢献企業の活動紹介、障がい者の就労支援施設の物品販売などを行っています。

■活動の様子



② 介護者のつどい（くつろぎルームたんぽぽ）

＜学区地域住民（介護者・介護に興味がある方）対象＞

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

絵手紙教室や料理教室、福祉制度の勉強会や介護体験者による講演、施設見学などを実施しています。介護者同士の情報交換や介護者の悩み、健康相談を気軽にすることができる場所を提供することで、介護疲れやストレスの軽減を図ることを目的としています。

■活動の様子



③ 学区福祉防災講座（学区災害避難所宿泊体験）——＜額田地域住民対象＞

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

大規模地震や土砂災害等を想定し、防災講話や防災寸劇、防災資材づくり、炊き出し訓練、グループワークなどを通じ、地域や家庭でできる備えについて地域住民みんなで考えます。また、実際に避難所となる体育館での宿泊による避難所生活を体験し、災害時の大変さや困難なこと、そして住民同士助けあうことの大切さについて共有します。

■活動の様子



④ 福祉実践教室・福祉教育プログラム

＜市内の小学校・中学校・高等学校のうち、希望する学校（学年やクラス）対象＞

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

児童・生徒が高齢者や障がいのある人から講話を聞き、実際に疑似体験を行っています。様々な人が暮らしている地域社会で相手の立場を理解し、思いやりの心を育み、「人にやさしいまちづくり」として日常的な福祉活動を実践するためのきっかけとなっています。福祉実践教室は、体験を中心とした授業、福祉教育プログラムは事前学習・体験・事後学習を1つのプログラムとして提供しています。

■活動の様子



(2) 心をつなぐ交流・居場所づくりの推進

① 子ども食堂をはじめとした食支援活動 ―＜一般市民対象＞

【おいでんネットワークの事例】

おいでんネットワークは、すべての子どもが幸せになることを目的として様々な活動を実施しています。「おいでん家子ども食堂」「夏休みおいでん」を開催し、子どもが安心して食事をしたり遊んだりすることができる場を提供しています。

また、地域の高齢者がお茶を飲んで過ごす「ほっこりお茶会」、岡崎市と連携し、支援を必要とする世帯への食支援活動を行う「ラブ♡フードおいでん」などの活動も行っています。

■活動の様子



② 北斗台会館を活用した地域の居場所 ―＜細川学区の住民対象＞

【細川学区北斗台（町内会）の事例】

ラジオ体操・コミュニティカフェ・朝市・ランチ大集合・北斗台春フェス・どんぐり山大集合など、北斗台会館や公園を活用して、子どもから大人まで、住民同士が交流する居場所になっています。

■活動の様子



（１）社会的孤立を防ぐ支援

① 市民向け権利擁護講演会 ＜一般市民対象＞

【岡崎市障がい者基幹相談支援センターの事例】

毎年講師を招き、市民向け権利擁護講演会を開催しています。講師は、当事者やその支援者など、直接障がいのある人に関わりのある人が中心となっています。市民に対し、障がいのある人も同じ地域住民の一員であることをわかりやすく理解してもらうことができるテーマ設定を行っています。

■活動の様子



② OKフードドライブ ＜生活困窮者・子育て世帯対象＞

【OKフードドライブ実行委員会・各企業・岡崎市・岡崎市社会福祉協議会の事例】

OKフードドライブとは、有志の団体などから寄付いただいた食料品・生活用品を必要とする人に届ける活動のことです。「困っている人の役に立ちたい！私たちにできることをしたい！」という思いをもつ有志が地元企業を中心に集まり、事務局が立ち上げられました。OKは「大人から子どもまで」「おかざき」という意味を表しており、生活困窮者や新型コロナウイルス感染症拡大の影響により生活に不安のある子育て世帯に、食料品・生活用品が配付されています。

■活動の様子



③ 福祉総合相談体制の充実 ―＜一般市民対象＞

【岡崎市・岡崎市社会福祉協議会の事例】

世代や属性を問わない、福祉に関する「まるごと相談窓口」として、岡崎市役所に『ふくサポ』、額田支所に『ふくまど』を設置しています。地域住民からの相談に応じ、セルフネグレクトや長期にわたるひきこもりなど、困りごとを抱えた本人または家族にまるごと寄り添い、関係機関と連携を図りながら、誰一人取り残さない地域社会の実現に向けた取り組みを進めています。

■活動の様子（ふくサポ）



■活動の様子（ふくまど）



(2) 多機関のネットワーク強化

① 権利擁護研修会の実施 ―福祉関係事業所対象―

【岡崎市障がい者基幹相談支援センター・岡崎市成年後見支援センターの事例】

関係機関などが一堂に会して権利擁護や虐待に関する研修（勉強会）を開催しています。研修では、権利擁護や虐待に関する現状や課題について共有するとともに、適切な対応方法などについて検討が行われています。

■活動の様子



② テーマ型ボランティアと地縁型ボランティアの連携

―ボランティア活動者・一般市民対象―

【岡崎市ボランティア連絡協議会・岡崎市学区福祉委員会連絡協議会の事例】

福祉課題が多様化する中で、テーマ型ボランティアと地縁型ボランティアと一緒に課題解決に向けた活動をしていく必要があると感じ、両組織の情報交換会を行っています。その中で、両組織の課題として挙げた担い手不足を解決するため、「はじめの一步体験会」を実施しています。

■活動の様子



(3) 暮らし続けられる地域づくり

① 災害ボランティア支援センター設置運営訓練 <一般市民対象>

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

大規模災害時に開設することがある災害ボランティア支援センターの存在や機能・役割を市民に知ってもらうため、また、登録の災害ボランティアコーディネーターをはじめ、関係者の知識・技術の向上のため、災害ボランティア支援センターの設置・運営訓練を実施しています。

■活動の様子



② ひきこもり経験者の社会参加に向けた取り組み <ひきこもり経験者対象>

【岡崎市社会福祉協議会・ひきこもり不登校支援団体・各企業の事例】

岡崎市社会福祉協議会・ひきこもり不登校支援団体・各企業が連携し、不登校やひきこもりの経験者が社会に踏み出す際の第一歩として、職場体験を実施しています。具体的には、販売店での商品の整理や車の清掃などが行われており、企業としては雇用の確保を図るとともに、社会貢献活動の一つとなっています。

■活動の様子



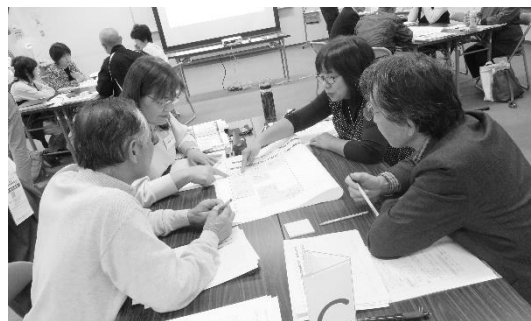
(1) 地域福祉活動への参加の促進

① 地域福祉リーダー養成塾 <学区福祉委員会・ボランティアセンター登録団体対象>

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

主にボランティア団体や学区福祉委員会のリーダー層の人に対し、地域福祉活動の意義や必要性を理解し、地域福祉活動を進める上で、リーダーとして組織運営に必要なコミュニケーション能力、行動力、決断力などのリーダーシップ力を高める方法を学ぶ地域福祉リーダー養成塾を開講しています。

■活動の様子



② サロン活動に参加できない高齢者の送迎

<学区福祉委員会主催のサロン活動に参加する高齢者対象>

【岡崎市社会福祉協議会・学区福祉委員会・企業の事例】

サロン活動を実施している会場までが遠い、坂が急で大変など、サロンに行きたくても行くことができない高齢者の送迎を行っています。送迎にあたっては地元企業と連携し、企業の試乗車を活用するとともに、企業の従業員が運転手を務めています。送迎は、高齢者の自宅とサロン活動を実施している会場までを直接結び、サロン活動に多くの高齢者が参加することができています。

■活動の様子



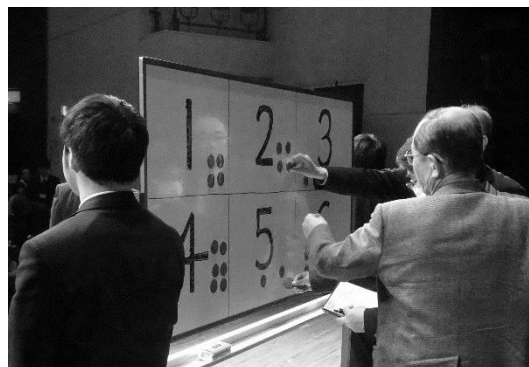
③ 岡崎福祉ハッピーリンク活動助成事業 <地域福祉活動に取り組む団体対象>

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

岡崎福祉ハッピーリンク活動助成事業とは、赤い羽根共同募金を財源に、市内で先駆的で必要性の高い地域福祉活動に取り組む団体に、活動費を助成する事業です。

赤い羽根共同募金の用途を市民に知っていただくことも一つの目的としています。申請団体は、公開プレゼンテーションにおいて、活動の目的や資金の用途などについて話し、参加者（一般市民）の投票により、助成金額の最終決定を行っています。

■活動の様子



④ ボランティア入門講座 <一般市民対象>

【岡崎市ボランティア連絡協議会の事例】

ボランティア活動の担い手不足の解決やボランティア活動に興味・関心をもち、ボランティア活動を始めるきっかけをつくるため、ボランティア団体が講師となり、活動紹介や体験を行うボランティア入門講座を実施しています。

■活動の様子



(2) 地域力アップの仕組みづくり

① お散歩ビンゴ <一般市民対象>

【南部地域包括支援センター・むつみ地域包括支援センターの事例】

お散歩ビンゴとは、六ツ美地域内で取り組んでいる、介護予防、健康づくりを目的とした取組です。ビンゴカードを手に散歩をしながら、地域内に掲示された番号を探します。番号掲示には、六ツ美地域内の企業や事業所、寺院など、約100か所の番号ポイントがあり、誰でも自由に参加が可能です。

■活動の様子



② PCめだかふれあいクラブ <矢作西学区の住民対象>

【矢作西学区福祉委員会の事例】

PCめだかふれあいクラブとは、パソコンの操作が得意な地域住民が講師となり、パソコンの使い方について住民同士が学びあう活動です。会場の宇頭公民館は、町内会の理解もありWi-Fi環境が整備されています。またコロナ禍においては、オンラインシステムZoomを活用し、クラブ活動を継続しています。パソコン操作のスキルも、地域住民のつながり力もアップする、一石二鳥の活動です。

■活動の様子



③ ふくふくタイム ＜福岡小学校 1 年生対象＞

【福岡学区福祉委員会の事例】

ふくふくタイムとは、時間割の都合上、小学 1 年生だけで下校する日に、上級生の授業が終わるまで福岡学区福祉委員会メンバーが福岡小学校に出向き、昔遊びなどをして 1 年生児童と過ごす活動です。地域と学校が連携し、児童の安全な下校が実現しています。

■活動の様子



④ 竜小フェスティバル ＜竜美丘学区の住民対象＞

【竜美丘小学校 P T A ・ 竜美丘学区福祉委員会の事例】

竜美丘学区で毎年開催する福祉まつり。令和元年度から、竜美丘小学校 P T A と竜美丘学区福祉委員会が協働し「竜小フェスティバル」として開催しています。福祉体験コーナーや福祉講演会、模擬店や折り紙などを使ったふれあいコーナー、相談会などのブースを設け、福祉について関心を持ってもらう機会をつくっています。子どもや保護者、高齢者など、幅広い世代が参加する交流の場となっています。

■活動の様子





こんな活動あったらいいな！取組のアイデア集！

岡崎市地域福祉計画事業検討部会で、地域福祉計画を推進していくための新たな取組についてアイデアを出してみました！

ふくしでつながると地域が強くなる！！以下のアイデアを、各地域における今後の取組の参考にしてみてください。

★ テーマ【ふくし×情報化社会】で創造する「こんな活動あったらいいな！」

■取組の概要

区分	内容
タイトル	ＩＴを活用した見守り活動
地域の現状と今後の方向性	見守り活動は、訪問によって実施されているところがほとんどであるが、支援者の負担軽減や見守りの頻度をあげること、効率化を図るためにＩＴを活用した見守り活動に取り組むことが考えられないだろうか。
具体的な取組案	○ まずはスマートフォンの操作勉強会 ・ 見守り対象者・支援者、どちらも操作に慣れよう！！ ・ 大学生や企業に先生になってもらおう
参画メンバー	○ 講師…学生・企業など ○ 会場…福祉事業所・公共施設・企業など ○ 企画・運営…見守り活動実践者・福祉委員会・町内会など

★ テーマ【ふくし×多文化共生】で創造する「こんな活動あったらいいな！」

■取組の概要

区分	内容
タイトル	外国人との交流を深めよう ～異国の生活を知り、自分たちの生活も豊かに～
地域の現状と今後の方向性	言語も文化も習慣も異なる日本人と外国人が同じ地域で暮らしていくためには、お互いが知りあうことが必要になる。お互いを尊重しあい認めあうために、様々な場面で交流の機会をつくることはできないだろうか。
具体的な取組案	○ 異国体験交流会（食・文化） ○ 地域のルールを学ぼう（ゴミ出しや買い物など） ○ 避難訓練（避難所体験など） ○ やさしい日本語勉強会
参画メンバー	町内会・ボランティア団体・外国人支援団体など

★ テーマ【ふくし×環境保全】で創造する「こんな活動あったらいいな！」

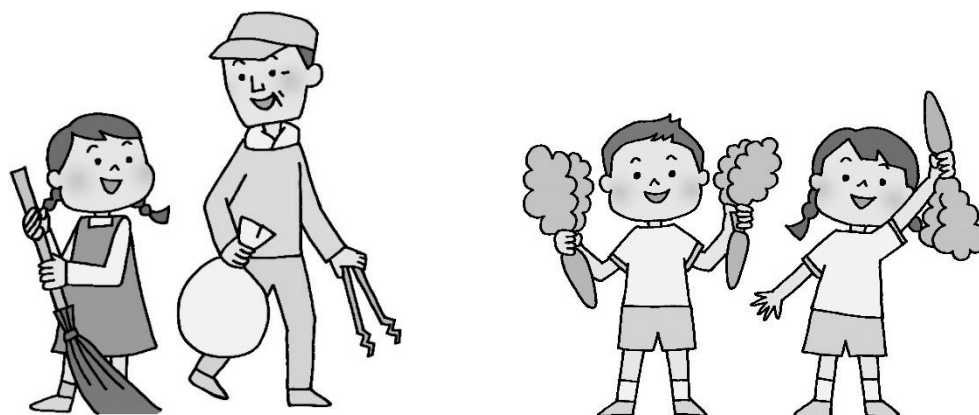
■取組の概要

区分	内容
タイトル	自分たちのまちは自分たちで守る！つくる！
地域の現状と今後の方向性	まちの保全のために、清掃活動や通学路の整備など、様々な活動がされているが、実際に誰が活動をしているのか、知らないことが多い。自分たちのまちを自分たちで守るために、多くの地域住民が関わることができるとよいのではないか。
具体的な取組案	○ まずは自分のまちの保全活動について知る ○ 自分のまちの保全活動に参加する（ごみ拾いや清掃活動など） ○ 自分たちで守るために、住民同士が知りあう
参画メンバー	町内会・地元の学生・企業など

★ テーマ【ふくし×農林水産】で創造する「こんな活動あったらいいな！」

■取組の概要

区分	内容
タイトル	農地を囲んでつながろう！！
地域の現状と今後の方向性	市内には、地主の高齢化や後継ぎがないなどの理由で、田畑の維持ができず放置されている農地がみられる。その農地を有効活用し、農作物などを育て収穫することで、地域住民同士のつながりづくりとなり、農地の保護にもつながるのではないか。
具体的な取組案	○ 遊休農地を活用し、農作物を育てよう ○ 収穫作業もみんなで体験 ○ 収穫した野菜などで料理をつくっちゃお！！
参画メンバー	地主・福祉施設・子ども食堂・学校など



第 3 章

学区別計画

学区別計画の策定・推進

岡崎市（以下、「本市」という。）の総面積は387.2㎢と、県内で3番目に広い市域を有しています。このため、地域によって地域住民の年齢層や地理的条件、地域資源などの違いが大きく、それにより地域の抱える課題やニーズは地域ごとに様々です。

そのため、本計画の基本理念である「みんなで築く ホットなまち 生き生きと暮らせる 支えあいのまち」を実現するためには、各地域に住む住民自身が地域の状況を把握するとともに、地域の特徴に応じた地域福祉について住民みんなで考え、取り組む必要があります。

平成29年に策定した「第3次岡崎市地域福祉計画」では、市内47小学校区ごとに地域の状況を踏まえた学区別計画を策定し、地域住民が主体となって地域福祉を進めてきました。

このたび、「第3次岡崎市地域福祉計画」の計画期間が満了し、本計画を策定することを受け、平成29年に策定した各学区別計画を見直し、新たに学区別計画を策定しました。

福祉座談会（ミソ端会議）の開催概要

本市ではこれまで学区別計画の策定や推進、進捗評価にあたり、小学校区単位で福祉座談会（通称「ミソ端会議」）を開催してきました。

このたびの学区別計画の策定においても、小学校区単位で「ミソ端会議」を開催しました。「ミソ端会議」では、平成29年から5年間の学区別計画の進捗状況を評価するとともに、学区のめざす姿や理想の地域像を再設定し、その実現に向けて具体的に取り組むことについて検討しました。

■「ミソ端会議」の様子



学区別計画の見方

第3章では、平成29年度以降に実施した「ミソ端会議」における検討により、今後5年間で各学区で取り組む地域福祉の方向性を示しています。

■学区別計画の見方（左のページ）

1 梅園学区				
(1) 学区の概況				
	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成28年	14,247人	5,679世帯	24.2%	15.7%
令和3年	13,159人	5,604世帯	27.3%	13.6%
資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）				
(2) これまでの取組				
第3次計画における課題	取り組むこと		学区の評価	
高齢者支援のさらなる充実	① 訪問、いきいきクラブやサロンの充実		H30 R1 R2	
	② 町内での情報共有			
	③ 「おかしい？」と思ったら、誰かに相談する			

(1) 学区の概況

学区ごとに人口構造に関するデータを掲載し、5年前と比較しています。

(2) これまでの取組

平成29年から5年間の学区別計画では、課題に対して取り組むことを示しました。その内容について、平成30年度以降に実施した「ミソ端会議」において進捗状況を評価しました。

■評価基準表

段階	①	②	③	④	⑤
ミソづくりの工程	大豆	大豆 ～煮てつぶす～	大豆→ミソ ～桶につめる～	ミソ ～発酵中～	ミソ ～熟成・食べごろ～
工程を表すアイコン					
取組の進捗状況	取り組めていない	取り組み始めた	取り組み中	安定してきている	ゴール！

■学区別計画の見方（右のページ）

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）				
梅園学区のめざす姿 なんでも話し合える 近所や地域での関係づくり				
<理想の地域像と、そのための具体的な活動>				
No.★	理想の地域像	活動	令和8年度までに、理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.★
1	若い世代の参加者も増え活動が活発になる	見守り活動	① 見守り活動（月1回～年数回） ・各町により異なるが、意識を統一 ② 登下校の見守り・声掛け活動（毎日） ・見守り活動者のメンバー拡大を検討	2・4・5
	他団体と緊密に連携がとれる	サロン活動	① いきいきクラブ（年11回実施） ② 1人暮らし高齢者との食事会（年5回） ③ サロン活動（年12回） ・おしゃべり会を継続 ④ ごまんぞく体操（3か所） ・桜城橋と羅田公園で実施 ⑤ 福祉センターや民生委員との交流	1・2
		多世代	① 世代間交流（年4回） ・敬老会、いきいきクラブ、餅つき大会 ・盆踊りを入れる等、活動内容を検討	1

(3) 今期の計画

「ミソ端会議」での検討結果を踏まえ、各学区のめざす姿を再設定しました。

また、めざす姿を達成するための理想の地域像を定め、その実現に向けて、令和8年度までに具体的にに取り組むことを示しました。

関連する No.(★)

「理想の地域像」の「No.(★)」と対応しています。各活動がどの理想の地域像を実現するために取り組むかわかるようにしています。

1 梅園学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	14,247 人	5,679 世帯	24.2%	15.7%
令和 3 年	13,159 人	5,604 世帯	27.3%	13.6%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 訪問、いきいきクラブやサロンの充実		—	
		② 町内での情報共有		—	
		③ 「おかしい!？」と思ったら、誰かに相談する		—	
2	支援を必要とする子育て世代の把握と支援の充実	① 自分の子ども、地域の子どもを見守る意識を持つ			
		② 「誰でもできること」「特定の立場でできること」の区別をした支援		—	
		③ 地域に見える情報発信の工夫			
3	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 登下校時の見守りの充実		—	
		② 青色パトロール車の増車		—	
		③ 夜間パトロールの実施		—	
		④ 高齢者対象の防災訓練の実施		—	
4	個人情報をごくまで共有できるか	① 町内会を通じた顔合わせ			

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

梅園学区のめざす姿

なんでも話し合える 近所や地域での関係づくり

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	若い世代の参加者も増え活動が活発になる	見守り	① 見守り活動（月1回～年数回） ・各町により異なるが、意識を統一 ② 登下校の見守り・声かけ活動（毎日） ・見守り活動者のメンバー拡大を検討	2 ・ 4 ・ 5
2	他団体と緊密に連携がとれる	サロン	① いきいきクラブ（年11回実施） ② ひとり暮らし高齢者との食事会（年5回） ③ サロン活動（年12回） ・おしゃべり会を継続 ④ ごまんぞく体操（3か所） ・桜城橋と籠田公園で実施 ⑤ 福祉センターや民生委員との交流	1 ・ 2
3	組織に若い人が加わり、福祉委員会が活発になる	多世代での交流	① 世代間交流（年4回） ・敬老会、いきいきクラブ、餅つき大会 ・盆踊りを入れる等、活動内容を検討 ② ラジオ体操（毎日） ③ 地域住民を交えての交流会 ・学区内に限らず、学区外の人とも交流 ④ 多世代型サロン「お元気クラブ」 ⑤ スポーツ大会	1 ・ 2 ・ 3
4	安心安全な地域になる	子育て支援	① 子育てサロン（年4回） ② 読み聞かせ活動（月1回） ③ 赤ちゃん訪問（随時） ④ 子どもの家との共同作業	1 ・ 2 ・ 3
5	転入してきた住民を把握し、地域で交流できる	防災・防犯	① 青色防犯パトロール（月3～4回） ② 防犯カメラ設置（必要に応じて増設） ③ 防災訓練（年1回） ④ 避難所体験（町ごとで計画・実施） ⑤ 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ・総代、民生委員、福祉委員と連携 ⑥ 清掃活動	1 ・ 2 ・ 4 ・ 5
		学びの場	① 研修会 ・市民ホームを活用し勉強会を実施	1 ・ 2 ・ 3

2 根石学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	13,667 人	5,781 世帯	23.8%	13.8%
令和 3 年	13,456 人	5,970 世帯	25.4%	12.2%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 福祉、民生、老人会の一体化による高齢者世帯、一人暮らし世帯の見守り	—	—	
		② 小さい地区単位でサロンの実施	—	—	
		③ 高齢者世帯の見守りについて、学区全体での意見交換をしながら取り組む	—	—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 防災・防犯の研修などで、危機感を持つ	—	—	
		② 「向こう三軒両隣」をみんなで考える	—	—	
		③ 協働作業を全世代一緒に実施	—	—	
		④ 隣近所であいさつ、声かけ	—	—	
3	学区福祉委員会の体制強化	① 関係役員（福祉、民生、総代など）、関連団体（老人会、子ども会など）間の情報共有	—	—	
		② 福祉委員の活動内容の明確化	—	—	
		③ 高齢者の増加にともなう福祉委員の充実	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

根石学区のめざす姿

- ・ **みんなが気軽に話し合い 人と人がつながる町 根石学区**
- ・ **互いに気づかい 思いやる心をもつ地域 根石学区**
- ・ **年齢にかかわらずいつまでも安心して生活できる根石学区**

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	男性が参加しやすい活動や居場所が増え、暮らしにハリが出る	見守り	① 登下校見守り（学区声掛け隊）（毎日） ・ 担い手の検討 ② 高齢者の見守り活動 ・ 奇数月に対象者の確認 ・ 偶数月に対象者宅への訪問	1 ・ 4 ・ 5
2	会議や行事について、他団体と情報共有し協力しあえる	サロン	① サロン活動（年2回、市民ホーム） ② いきいきクラブ（月1回） ・ 福祉だよりで周知 ③ ごまんぞく体操（週1回、2か所） ・ 町ごとに開催会場（公民館）を利用 ④ ひとり暮らし高齢者との茶話会 ⑤ 世代間交流 ・ 幼稚園や大学との交流 ・ 感染症対策を行い、再開を検討	1 ・ 3 ・ 4 ・ 5
3	これまでに得た経験や技術を子どもに伝える機会がある	防災・防犯	① 防災訓練（年1回、各町実施） ・ 防災・防犯協会連合会と連携 ② 災害時避難行動要支援者名簿の整理（2か月に1回） ・ 高齢者の見守り活動との連携 ③ 安全パトロール（年2回） ④ 清掃活動（各町実施）	1 ・ 2
4	若い担い手が増え、活動が継続できる	広報	① 福祉だよりの発行（月1回） ② SNSを活用した広報の検討	2 ・ 4
5	他団体と連携して子どもを見守ることができる	他団体との 情報共有	① 18町会議（月1回） ・ 他団体（総代会・民生委員児童委員協議会・福祉委員会・長栄クラブ・地域包括支援センター）との連携 ・ 根石いきいきマップの見直し・更新	1 ・ 2

3 六名学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	13,543 人	5,752 世帯	19.9%	15.7%
令和 3 年	14,443 人	6,312 世帯	20.7%	16.3%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① サロン活動の細分化	—	—	
		② サロン活動へ参加できない人への手当ての検討	—	—	
		③ 市民ホームと母子福祉センターの 2 か所での実施	—	—	
		④ 一人暮らし高齢者の見守り活動と情報共有の強化	—	—	
2	新たな福祉課題を抱える人の把握と支援の方法についての理解	① 75 歳以下の一人暮らしで、身体状況の弱い人への対応	—	—	
		② 認知症やニート、投薬などを行っている 75 歳以下の人への訪問が必要かを考えていく	—	—	
		③ 見守りが必要な対象に応じた訪問体制づくり	—	—	
3	各種組織との連携の強化による、学区福祉活動の推進	① 総代会、社教委員、福祉委員の役割の明確化	—	—	
		② 連携についての話しあい	—	—	
4	個人情報取り扱い	① 町籍簿の充実	—	—	
		② 個人情報への対応	—	—	
5	健康増進活動	① ラジオ体操の効果的な実施方法の検討	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

六名学区のめざす姿

みんなが地域のことを思い助け合うまち 六名

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	緊急時に支援を必要とする人を支援する体制が整っている	交流	① サロン活動 ・あすなろ（週1回） ・オレンジカフェ（アルクオーレで月1回） ② いきいきクラブ（月2回） ③ いきぬき広場 ・開催場所の確保、活動の再開 ④ 子育てサロン（おたまじゃくし）（年7回） ⑤ 子ども食堂「ココカラ」（月1回） ⑥ おたっしやなかま（年4回）	2・3
2	ニーズが把握でき、支援体制が充実する	見守り	① 高齢者の見守り活動（2か月に1回） ・75歳以上の独居高齢者及び80歳以上の高齢者夫婦世帯を対象 ② 登下校時の見守り（毎日） ・下校時の見守り活動を分散して実施 ・学校との連携	2・3・4
3	個人情報適切に共有でき、支援を必要とする人を把握できる	健康維持・介護予防	① ごまんぞく体操（週1回、6か所） ② ラジオ体操（六名公園・岡崎公園で毎日） ・体操前後のおしゃべり会も有意義な時間になっている	2
4	安心安全な地域になる	防災・防犯	① 防災訓練（年1回） ② 安全防犯パトロール ・防災防衛隊の活動（町ごとで月1回） ・民生委員がパトロール実施（年1回、7月） ・警察と総代の合同パトロール（年2回） ③ 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年1回） ④ 清掃活動 ・愛友会（年2回） ・ピカピカ（年1回）	1・2・3・4
5	誰もが市や地区の情報を知っている	広報	① 福祉だよりの発行（年2回、全戸配布）	5

4 三島学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	9,462 人	4,368 世帯	24.4%	12.1%
令和 3 年	9,667 人	4,707 世帯	25.1%	12.2%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者が活躍できる学区づくり	① 学童保育の場での高齢者の協力	—	—	
		② 子どもに勉強や得意なことを教えたり、昔の遊びと現代の遊びで交流をする	—	—	
		③ 戦争体験などを話してもらう	—	—	
2	高齢者に対する支援の充実	① 交流の場の確保に向けて、寺社や企業などに働きかける	—	—	
		② 空き家の利活用	—	—	
		③ 公民館が少ないので、増やす運動をする	—	—	
		④ 高齢者の日々の様子など、隣近所の方から情報を得るネットワークをつくる	—	—	
3	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 下校時に犬の散歩を兼ねたりした見守りパトロールをしてもらうことで、子どもたちの安全を確保する	—	—	
		② 防災訓練を町内単位で行う	—	—	
		③ AED の使い方を知ってもらう	—	—	
		④ 情報収集の体制づくり	—	—	
4	子育て支援	① 安心して子どもを産むことができるように地域が協力しあう	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

三島学区のめざす姿

近所や地域を思いやり、自分ごととして行動できるまち 三島

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	担い手が増え、 活動が活発になる	見 守 り	① 登下校の見守り（毎日） ・自宅付近で見守る人を増やす	2 ・ 3 ・ 5 ・ 6
2	支援を必要とする人に関する情報を把握し適切に対応できる		② 高齢者の見守り訪問（年7回）	
			③ 高齢者との食事会（年1回） ・独居高齢者と80歳以上の夫婦世帯も対象	
			④ おたすけ隊 ・木の伐採、引っ越しの手伝い、電球交換、買い物等	
3	情報が行き届き、様々な活動に参加できる	体 操	① ごまんぞく体操（3か所）	2 ・ 7
			② あるこう会（月2回）	
4	高齢者が自分らしく活動できる場がある	サ ロ ン	① 子育てサロン（年5回）	2 ・ 4 ・ 7
			② いきいきクラブ（年10回）	
			③ 世代間交流 ・小学校と連携	
5	つながりが強化され助けあえる学区になる	広 報 ・ 研 修	① 研修会（年3回、福祉委員を対象）	1 ・ 3 ・ 5
			② 福祉だよりの発行（年1回） ・発行回数・枚数の検討 ・回覧以外の広報の方法について検討	
6	安心安全な地域になる	防 災 ・ 防 犯	① 防災訓練（年1回） ・宿泊訓練の復活の検討	2 ・ 6
			② 救急医療情報キットの作成（年1回）	
			③ 防犯活動 ・町ごとの実情に応じ、安全パトロールを年1回実施 ・防犯カメラの設置・増設 ・1軒1灯活動の実施	
7	参加者が増え、活動が活発になる		④ 清掃活動（毎日～年数回）	

5 連尺学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	9,719 人	4,457 世帯	26.1%	12.5%
令和 3 年	9,924 人	4,739 世帯	27.0%	12.5%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 高齢者の交通手段の確保	—	—	
2	新たな福祉課題を抱える人の把握と支援の方法についての理解	① 法テラスや地域包括支援センターへの相談・提案	—	—	
		② 家族の協力を得ることが必要	—	—	
		③ 引きこもりの老人をどう見守るか話しあう	—	—	
		④ 防災を糸口に関係づくりを行う	—	—	
		⑤ 近隣や第三者からの相談を聞く	—	—	
3	各町単位での福祉活動の推進など、学区福祉活動の充実	① それぞれ趣味にあった会をつくる	—	—	
		② 各学区、各町の問題意識を共有する	—	—	
		③ 防災、助けあいの取組を強化	—	—	
		④ 障がい者などを含めた防災訓練の実施	—	—	
4	行政との連携	① 市や社協の担当者と顔の見える関係づくりを行う	—	—	
5	ボランティア活動	① ボランティアでできること、そうでないことを整理する	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

連尺学区のめざす姿

**各町が情報を共有しながら、
いきいきと活動できる連尺学区**

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	町ごとの課題や活動を共有し、地域に合った活動が継続できる	見守り	① 高齢者の見守り（年2～3回） ・民生委員と連携 ② 登下校の見守り （交差点での立ち当番を継続して実施）	1
		広報・研修	① 福祉だより（年2回発行） ② 研修会（年2回） ・福祉セミナー	3 4 1 2
2	外出支援により誰もが安心して外出ができる	防災・防犯	① 防災訓練 ・学区で年1回実施 ・町ごとで実施 ② 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ・名簿を活用して声かけや安否確認の実施 ③ 救急医療情報キットの作成（継続） ④ 安全パトロール（町ごとに毎月実施） ⑤ 清掃活動 ・乙川、伊賀川、矢作川の清掃	1
3	福祉だよりが充実し、地域の情報を得ることができる	サロン	① いきいきクラブ（各町での活動を推進） ② 世代間交流（各町で増加） ・焼き芋大会、グラウンドゴルフ、餅つき大会、盆踊り、スタンプラリー等の実施 ③ ごまんぞく体操（全町での実施） ④ ひとり暮らし高齢者との食事会 ・少人数のグループで実施 ・交通手段がなくて参加できない人のための乗り合いやタクシー補助について検討	1 2
4	他団体と連携が取れ、地域全体を見守ることができる	他機関との連携	① 他機関との情報共有 ・地域包括支援センターとの連携 ・市役所担当者の会議への参加	4

6 広幡学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	11,366 人	5,103 世帯	21.3%	13.8%
令和 3 年	11,305 人	5,314 世帯	23.3%	12.4%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援が必要な高齢者の把握と支援の充実	① 2 人暮らし高齢者世帯の状況把握・情報共有、定期的な訪問の実施	—	—	
		② 声かけなどの充実	—	—	
		③ 情報提供及び共有の体制づくりの充実	—	—	
		④ 町籍簿の充実	—	—	
2	新たな生活課題を抱える人の把握と支援の方法についての理解	① 役割を持ってもらえるなら、持ってもらうことで支援を行う	—	—	
		② 総代からの各町の情報をまとめ、関連機関と情報共有する	—	—	
3	各種組織（学区福祉委員会・総代会・民生委員児童委員など）の連携強化による小地域福祉活動の推進	① 関連団体・組織が一堂に会して、情報共有・意見交換を行う	—	—	
		② 地域の中の組織づくり（動けるチームづくり）をしていく	—	—	
		③ 老人クラブなど元気な人たちの協力	—	—	
4	毎月の神社や堤防の掃除（組毎）	① 定期的な住民活動の中で変化を知っていく	—	—	
5	学区福祉委員会や各種団体のイベントの実施	① 活動の中で交流しながらの情報も共有	—	—	
		② サロンの実施	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

広幡学区のめざす姿

笑顔であいさつ 思いやりでつながる広幡学区

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	担い手が増え、 安心して活動が 継続できる	見 守 り ・ 訪 問	① 見守り活動（民生委員中心に2か月に1回） ・対象者の把握、総代会は要支援者の訪問 ・訪問台帳の適切な更新・各種団体との共有・活 動内容・頻度の検討 ② 友愛訪問（老人クラブで月1回） ③ 愛のレター作戦（総代会や民生委員中心に実施）	1 ・ 3
2	住民同士交流の 機会が増え、地 域が活性化する	交 流	① サロン活動（町内で月1回） ② いきいきクラブ（月1回） ③ お楽しみ会（民生委員中心に年1回） ④ 世代間交流 ・祭礼・盆おどり・スポーツ大会等を実施 ⑤ ラジオ体操（伊賀八幡にて夏休みに3回） ⑥ グラウンドゴルフ（週4回） ⑦ ごまんぞく体操	1 ・ 2 ・ 4
3	安心安全な地域 になる	子 育 て 支 援	① 登下校の見守り（毎日） ② 赤ちゃん訪問（民生委員中心に実施） ・訪問時に学区内の情報を提供 ③ 子育てサロン	1 ・ 2
4	歩いて行ける場 所で活動できる	防 災 ・ 防 犯	① 防災訓練（学区として3年に1回） ・町ごとで年1回 ② 安全パトロール（学区として夏・冬に開催） ・4ブロックごとで年2～3回、町ごとでも活動 ③ 救急医療情報キット ④ 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年1回） ⑤ 清掃活動（年2回、市民ホーム） ⑥ 防災講習会（社会教育委員会） ⑦ 防災マップの配布 ⑧ 防災・防犯の地域の担い手を確保	1 ・ 3
		広 報 研 修	① 研修会 ・市の防災・防犯に関する出前講座を活用 ② 広報活動 ・広報の方法の検討、方法を学ぶ機会を設ける ・広報活動が得意な人材を確保	1

7 井田学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	17,199 人	6,799 世帯	21.2%	16.7%
令和 3 年	18,491 人	7,506 世帯	21.2%	16.3%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第3次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	組織の連携を強化した、高齢者の見守り活動の強化	① 町内の各組織情報を的確に把握する		—	
		② 役員間の連絡体制の充実			
		③ 正確な高齢者の情報把握		—	
		④ 85 歳以上の 2 人暮らし高齢者世帯の見守り活動を行う			
		⑤ 隣近所との交流		—	
		⑥ 支援を必要とする人について、隣近所の人に関心を持ってもらう		—	
		⑦ 緊急時の対応の仕方、連絡網の充実		—	
2	子育て世代が安心して暮らすことができる安全・安心な学区づくり	① 地子会との連携		—	
		② 各総代へ情報提供のお願いをする		—	
		③ 学校の先生とも協力しあいながら世代間交流を行う		—	
		④ 子どもに声かけができる社会にしていく		—	
3	小地域活動の推進に向けた、学区福祉委員会の体制強化	① 体操や食育などサロン活動の実施		—	
		② 福祉委員会だけでなく、他の諸団体との連携の強化		—	
		③ 福祉委員同士の情報の共有		—	
		④ 子育てに余裕のある世代を、子どもを見守る役に協力してもらう		—	
4	学区内で福祉委員会活動をアピールする	① 若い人に対する福祉委員の勧誘		—	
		② 福祉委員会の P R の強化		—	
		③ 車イス体験など福祉体験の実施		—	
		④ 民生委員や福祉委員の枠にとらわれず、困った時などにどこへ連絡すればよいかを周知する		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

井田学区のめざす姿

みんなの心をつなぐ井田学区

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	誰一人取り残すことなく見守り をすることができる	見守り	① 高齢者宅訪問・声かけ・見守り（年6回） ② 登下校の見守り活動（毎日） ・総代に協力依頼を検討する	1 ・ 2 ・ 3
2	安心安全な地域 になる	交流	① 子育てサロン（年5回） ・開催場所を検討する ・子育て中の親が悩みを相談できる場にする ② ひとり暮らし高齢者との食事会（年1回） ・移動手段がなく、参加できない人のフォロー ③ 世代間交流 ④ 井田ふれあい文化祭での車いす体験（年1回）	3 ・ 4 ・ 6
3	担い手が確保さ れ、安心して活 動を継続できる	健康維持・ 介護予防	① 地域介護予防活動（月2回） ・ふれあい健康クラブ、ニコニコサークル、真伝サロン ・開催場所（広い場所、1階）を検討 ② ごまんぞく体操（3か所で週1回） ・歩いて行ける場所にするため、開催場所の増加 を検討（5か所をめざす） ③ グラウンドゴルフ（週2回） ・歩いて行ける場所にする	3 ・ 4 ・ 6
4	若い参加者が増 え活動が継続で きる	助けあい	① 避難行動要支援者対応の具体化・防災訓練 ・総代、民生委員、福祉委員三者で日頃の見守り 活動や防災訓練含め、行動の具体化	1 ・ 5
5	学区内での様々 な団体と緊密に 連携がとれる	防災・ 防犯	① 救急医療情報キット（年1回更新・配布） ② 防災訓練（年1回） ③ 安全パトロール（月4回） ・必要に応じて防犯カメラの増設を検討する ④ 清掃活動 ・若い人への参加促進 ⑤ 防災講習会（年6回）	2 ・ 4
6	移動手段が確保 でき、安心して 活動に参加でき る	広報・ 研修・ 会議	① 研修会（年1回） ・出前講座、施設見学等 ② 福祉だよりの発行（年2回） ③ Facebook ・様々な情報を発信する ④ 福祉委員会全体会（年6回）	3 ・ 4 ・ 7
7	適切に情報が共 有できている			

8 愛宕学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	4,156 人	1,862 世帯	31.2%	12.2%
令和 3 年	4,139 人	1,922 世帯	30.6%	12.0%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者の見守り活動の充実	① 総代、民生委員などいろんな人と連携して把握していく		—	
		② 日頃から地域の中で見守り、パトロールを実施		—	
		③ 家族の状況がわかるように回覧板にきた日付を書く		—	
		④ 市営住宅の集会場を借りられるか、確認する		—	
2	高齢者が安心して暮らすことができる、災害時避難行動要支援者支援体制の充実	① 町ごとに民生委員、総代、福祉委員で 1～2 か月に 1 回集まる			
		② お寺、神社の活用化などを活用し、年齢問わず集まれる居場所づくりを行う		—	
		③ 声かけの実施		—	
		④ 小さい単位で居場所づくり、避難場所の確保			
3	みんなで運営する学区福祉委員会体制の構築	① 若い世代を巻き込み、一緒に行っていく			
		② 運動会で学区福祉委員会について説明し、理解してもらう			
		③ 子育て支援の会や学校読み聞かせ活動を通じて、次世代の養成を行う		—	
4	子育て支援	① こども 110 番の見守りの家の増加		—	
5	地域の活性化	① いろいろなことをやりたい人の思いを吸い上げて、新しいことを始める		—	
		② 小地域ごとに開放できる場をつくる		—	
		③ 地域活動に参加しやすい環境づくり			

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

愛宕学区のめざす姿

誰もが健康で元気に楽しく暮らせる地域 愛宕学区

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	若い世代の理解 が深まり安心して 活動を継続できる	見守り訪問	① 見守り活動（友愛訪問） ・福祉委員会（年5回） ・老人クラブ（月1回） ・総代・民生委員・福祉委員・老人クラブと連携 ② 独居者マップの活用	3
		交流	① サロン活動（福祉委員会と老人クラブ共催で年1回） ② いきいきクラブ（月2回） ③ 世代間交流 ・グラウンドゴルフ（老人クラブ主催） ・セタ会（社教委員会主催） ④ ごまんぞく体操（週1回） ・場所の確保、歩いて行ける場所での実施を検討	1・2
2	活動参加者が増 えて活動が活発 になる	子育て支援	① 登下校時の見守り（週5回） ② 読み聞かせ活動（月2回） ③ 子育てサロン ・あじさいの会（年6回）、和っ家（月1回）	1・2
		広報・研修	① 研修会（年1回） ② SNSの活用 ・Facebook で様々な活動をPR ③ スマホ教室（年2回） ④ その他（福祉委員会の周知等）	2・3
3	他団体と緊密に 連携している	防災・防犯	① 防災訓練（年1回） ② 交通安全マップの作成（学校と町内会） ③ 安全パトロール（町ごとに実施） ・危険箇所の把握、必要により横断歩道の設置等を実施 ④ 第一次避難場所の周知 ・防災マップを定期的に見直し ⑤ 宿泊防災訓練（年1回） ⑥ 清掃活動（年2回） ⑦ 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年1回） ・総代・民生委員・福祉委員で協力	3

9 常磐南学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	1,371 人	447 世帯	18.1%	22.5%
令和 3 年	1,421 人	464 世帯	18.7%	25.7%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	子育て世代が安心して暮らせる学区づくり	① 子育て世代が出てきて話しあえる場をつくる	—	—	
		② 若い人たちとの交流の場を増やす	—	—	
		③ 若い人の困りごとを把握する	—	—	
2	学区で取り組む、防災・防犯体制の強化	① 歩道や通学路の防犯灯の整備が必要な場所を把握する	—	—	
		② 中学・高校への通学路の危険箇所を把握する	—	—	
		③ 学区内の通行車両に対する安全運転の啓発	—	—	
3	住民の意見を取り入れた、学区福祉委員会の運営	① 道根往還整備への若い人手の確保	—	—	
		② バスの提供の要請	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

常磐南学区のめざす姿

**住民が交流し合う、活気あふれる、
住み続けたい、自然豊かな 常磐南学区**

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	安心安全な地域 になる	学区の 行事	① 球技大会（年1回） ② 夏祭り（年1回） ③ 道根往還の整備 ・清掃活動（年1回） ・歴史を子どもたちに伝える、周知	2・3
		意見 交換会	① 小学生との意見交換会 「すてきミーティング」（年1回） ② 学区社会教育委員会、総代会との意見交換会 ・学区内の団体間で連携を図るため、定期的を実施 ・参加団体の検討 ・若い世代と地域について一緒に考える機会づくりの検討	1・2・3
2	住み続けたい地 域になる	安心安全に通行できる 道路の整備	① 通学路の整備（必要に応じて実施） ② 道路清掃（年2回） ③ 交通安全週間の活動（年5回） ④ 防犯カメラの設置 ・必要に応じて検討、要望 ⑤ 落石危険箇所の柵の設置 ・必要に応じて検討、要望	1
3	取り組みが充実 し、誰もが参加 できる	予介 防護	① ごまんぞく体操（各会場週1回） ・全町、公民館にて実施	2・3
		見 守 り	① 登下校の見守り（町ごと） ② 高齢者の見守り活動（年4回） ・独居高齢者を対象 ③ 友愛訪問	1・2

10 常磐東学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	1,233 人	434 世帯	30.7%	9.6%
令和 3 年	1,116 人	436 世帯	37.3%	10.0%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援を必要とする高齢者の把握と支援の充実	① 支援を必要とする高齢者の基準の明確化	—	—	
		② 要支援者名簿の活用方法の検討	—	—	
		③ 高齢者に限らず、支援者が必要な人の把握	—	—	
		④ 支援の内容が一人ひとり違うため、要支援者本人も交えた話し合いの実施	—	—	
		⑤ 支援を必要としているのに拒否している人に対する対応の検討	—	—	
2	学区で取り組む、防災・防犯体制の強化	① 各種団体の連携強化	—	—	
		② 福祉委員の役割の整理	—	—	
		③ 女性の防災要員の確保	—	—	
		④ 避難場所までの送迎方法の検討	—	—	
3	住民の意見を取り入れた、学区福祉委員会の運営	① 福祉委員会役員の位置付けの明確化	—	—	
		② 福祉委員会の役割のPR強化	—	—	
		③ 福祉委員会と各種団体との連携の強化	—	—	
		④ 高齢の方の役の免除	—	—	
		⑤ 住民の困りごとの把握	—	—	
		⑥ 福祉委員会活動内容の明確化	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

常磐東学区のめざす姿

**互いに声を掛けあい、励まし合う
互助の地域づくり 常磐東学区**

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	安心安全な地域 になる	見守り	① 見守り活動（月1回） ・民生委員が独居高齢者の見守りに対応 ・災害時避難行動要支援者の名簿を参考に訪問 ② 登下校の見守り（見守り隊により毎日） ・保護者との連携、子どもと一緒に歩く	1・3
		サロン	① 子育てサロン（民生委員中心に月1回） ② いきいきサロン（月1回、5か所） ・ごまんぞく体操の後のおしゃべり会を開催 ③ ひとり暮らし高齢者との食事会 ・弁当配布や子どもと一緒に食事をする等、町ごとに工夫して活動 ④ おしゃべりカフェ（米河内）（月1回）	2
2	参加者が増えて 活動が活発になる	体操・交流	① ごまんぞく体操（週1回、5か所） ② 世代間交流（年1回、合同運動会） ③ 歩け歩け（年1回） ・終了後のおしるこのふるまい（炊き出し訓練）	2
3	情報を把握し、 支援ができる	研修会	① 研修会 ・福祉について学ぶ機会を設ける	2
		防災・防犯	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年1回） ・総代・福祉委員長・民生委員で管理 ・組長にも情報共有するかどうか、個人情報の保護を踏まえ検討 ② 防災訓練（年1回） ・道具の使い方を継承 ③ 奉仕活動（年2回） ・歩け歩けのコースの整備 ・市民ホーム周辺の草取り	1・3

11 常磐学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	4,332 人	1,604 世帯	31.6%	16.4%
令和 3 年	4,208 人	1,624 世帯	36.0%	12.9%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	関係機関と連携した子育て支援体制の充実	① 事業実施会場の検討	—	—	
2	学区で取り組む、防災・防犯体制の強化	① 隣近所への普段からの声かけ	—	—	
		② 避難方法の再検討	—	—	
3	住民の意見を取り入れた、学区福祉委員会の運営	① いきいきクラブの参加者の移動手段の確保	—	—	
		② チラシなどによる学区福祉委員会活動の周知・啓発	—	—	
		③ 対象者の気持ちを考えた活動の継続	—	—	
4	地域活動の充実	① イモ掘り、イモ煮会による炊き出し訓練の実施	—	—	
		② 夢広場を活用した地域力の強化	—	—	
		③ 有識者など出前講座の活用	—	—	
		④ 同好会、クラブ活動報告会の活用	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

常磐学区のめざす姿

学区民みんなで取り組む きれいなまちづくり 常磐学区

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	担い手が増え、 活動が充実する	見 守 り	① 見守り活動（年4回） ・対象とする高齢者の年齢・世帯人員・訪問回数 の検討	1 ・ 2
			② 登下校時の見守り（毎日） ・担い手の増加	
2	参加者が増えて 活動が活発になる	交 流	① ごまんぞく体操（週1回、滝新町・滝町）	1 ・ 2
			② 多世代交流（年1回、イモ掘り・イモ煮）	
			③ 独居高齢者との食事会（年1回） ・コロナ禍では訪問活動に変更しているが、75 歳以上の希望者への実施に向け再開をめざす	
			④ 子育てサロン（ちびっ子プーさん）（月1回） ・幼児対象に常磐地区全体で実施	
		防 災 ・ 防 犯	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年2回）	1
			② 防災訓練（年1回）	
			③ 安全パトロール（月2回）	
			④ 清掃活動（月1回）	

12 竜美丘学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	14,719 人	5,985 世帯	19.8%	16.1%
令和 3 年	13,789 人	5,991 世帯	24.0%	13.6%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援が必要な高齢者の把握と支援の充実	① 支援が必要な高齢者リスト以外の支援が必要な高齢者の把握及び見守り内容の検討			
		② 災害時避難行動要支援者把握と訪問及び災害時避難行動要支援者制度の未登録者への対応		—	
		③ 縦割りでなく、社教委員会と連携する		—	
		④ 要支援者が希望する支援内容の把握		—	
2	安心して子育てが行える地域づくり	① 各種団体と話しあい、学区内の公園で子どもとのふれあい活動ができるか考える		—	
		② 野鳥の森の周知、利用促進			
		③ なんでも相談係、便利屋さん係、学習支援などに高齢者の協力		—	
		④ PTA と連携したこども 110 番の看板の見直し		—	
3	学区住民のさらなる交流の促進	① 学校を主にした子どもと地域の交流の場づくり		—	
		② 老人会や子ども会など関連団体の連携		—	
		③ 自主的な参加ができるような声かけや内容の検討			
4	福祉まつりへの参加	① 体の不自由な方々・高齢者の移動の方法を考える			
		② 移動手段の確保に向けた検討		—	
5	福祉に関する情報提供の必要性	① 介護する人同士が話しあう場を設ける		—	
		② 情報提供の通知方法の工夫		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

竜美丘学区のめざす姿

福祉活動に全員参加！
地域資源を生かした活動いっぱい！竜美丘学区

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	新規活動者が増えて活動が活発になる	見守り・訪問	① 高齢者の見守り活動（奇数月に訪問） ・12月の訪問や活動者・対象者の検討 ② 登下校の見守り（スクールガード） ・青色防犯パトロールの出動（年3回） ③ 赤ちゃん訪問（民生委員主体、随時） ・子育てサロン（どんぐり広場）の周知	1 ・ 2 ・ 5
2	他団体との連携が緊密にとれる	交流	① 町でのサロン活動 ・わいわいサロン（月2回） ・白鳥サロン（月1回）、ふれあいサロン ② 子育てサロン（どんぐり広場）（年9回） ③ 世代間交流（昔遊びの会）（年1回） ・若者に人気のテーマや内容の検討 ④ 福祉まつり（竜小フェス） ・PTAや学校との連携 ⑤ ふれあい食堂の実施検討	1 ・ 2 ・ 3 ・ 6
3	移動手段が確保できる、身近に参加できる場所がある	健康維持・ 介護予防	① ごまんぞく体操 ・7か所での活動（各町の公民館と市民ホーム） ② ラジオ体操	1 ・ 3
4	適切に情報を把握できる	広報・研修	① 福祉だよりの発行（回覧） ・毎月の行事予定や生活情報アドバイスに関する情報発信を検討 ② SNSの活用 ・ホームページやFacebookの更新・活用 ③ 研修会（福祉に関する勉強会）	1 ・ 4
5	安心安全な地域になる	防災・防犯	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年1回） ② 防災訓練 ③ 清掃活動 ④ 竜小自転車クラブ ・交通指導委員中心に活動 ・高齢者の自転車安全教室の実施検討 ⑤ 防犯カメラの設置（必要に応じて要望） ⑥ 災害時支援の体制づくり ・若い世代に周知、登録制の検討	1 ・ 2 ・ 5 ・ 6
6	若い世代も福祉に興味関心を持ち、活動に参加している			

13 羽根学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	12,349 人	5,221 世帯	21.8%	14.2%
令和 3 年	12,883 人	5,681 世帯	22.8%	14.5%

資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

(2) これまでの取組

	第3次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者（75 歳以上）見守り活動のさらなる充実	① 災害時避難行動要支援者情報を町推薦福祉委員と組長にも提供し、地域支援者として、平常時には一人暮らし高齢者の見守り活動、災害発生時には安否確認や避難誘導への協力を要請（組長が地域支援者としての活動ができない場合は、両隣など日頃から交流のある人に代行を依頼）			
2	サロン活動の開催地域を拡大する	① サロン開催場所（喫茶店、飲食店、介護事業所など）の開拓に努め、すべての町内会もしくは小地域でサロン活動を実施できるようにする（開催場所に依拠して対象者の送迎も考慮する）		—	
		② 既にサロン活動を実施している地域においては、年間1回程度、交流を目的に食事会を実施する		—	
3	子育て支援事業（はねっ子広場、はねっ子サロン）の充実	① 子育て支援事業の円滑な実施（要員の確保）		—	
		② 子育て支援事業の実施場所の安全管理（駐車場の誘導）に努める		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

羽根学区のめざす姿

**子どもから高齢者まで
誰もが笑顔で安心して暮らせる地域 羽根学区**

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	参加者が増えて 活動が活発になる	見守り・訪問	① 見守り活動（2か月に1回） ・毎月訪問できるよう検討 ・75歳以上の独居高齢者を対象にアンケート調査を実施し、支援が必要な人や心配な人を把握 ・平常時の安否確認 ・安否確認の現状調査 ・見守り基準の作成	3 ・ 4
2	担い手が確保され、安心して活動が継続できる	子育て支援	② 友愛訪問	
		子育て支援	① 子育てサロン（はねっこ広場） ② 子ども食堂（えほんしょくどうどうその店）（月1回）	1 ・ 2
3	情報管理が適切に行われ支援ができる	交流	① 各種サロン活動 ・おしゃべり会 ・ごまんぞく体操 ・健康体操	1 ・ 2 ・ 5
4	安心安全な地域になる	交流	② 各種サロン活動の開催場所増加の検討 ③ 各種サロン会場への移動手段の検討	
		広報	① 福祉だよりの発行（年4回） ② SNSの活用 ・Facebookを広める	1 ・ 2
5	移動手段が確保できる、近場で参加しやすい場ができる	防災・防犯	① 災害時避難行動要支援者への対応 ・個別台帳の整理 ・地域支援者の選定・依頼	3 ・ 4

14 岡崎学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	10,267 人	4,129 世帯	17.7%	17.6%
令和 3 年	11,068 人	4,620 世帯	17.6%	17.6%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援の充実	① 見守り訪問回数を増やす		—	
		② サロン活動を充実して、気軽に集まれる場をつくる			
		③ 高齢者支援の内容の再検討・再確認		—	
2	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① 一人暮らし、2 人暮らし高齢者を含めた災害時要支援者の把握と充実			
		② 子育て中の親をサポートする体制づくり		—	
		③ ボランティア活動の意識改革（地域パトロールの充実）		—	
3	多様な団体と連携した地域福祉活動の推進	① 学区諸団体、特に若い世代との連携			
		② 外出することができない人への支援方法の検討			
4	福祉委員活動の充実	① 人の募集と協力団体の拡大		—	
		② 若い世代の参加促進		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

岡崎学区のめざす姿

**みんなで支え合い 笑顔あふれる
元気であたたかな岡崎学区**

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	支援を必要とする人の状況が把握できている	見守り	① 見守り活動（月1回、対象者の検討） ② 訪問活動（年2回） ③ 3Cパトロール（学校と地域との連携） ・黄色いベスト着用者の増加 ④ 危険箇所のマップ作成	1 ・ 2 ・ 3
2	安心安全な地域になる	サロン	① ふれあいサロン（年1回、5か所） ・会場の増設や送迎の検討 ② なのはな茶屋（地域包括支援センターとの連携） ・送迎の検討 ③ 気軽に寄れるサロンの設置検討	3 ・ 5
3	担い手が増えて活動が活発になる	防災	① 防災訓練（町ごとまたは近隣町合同での実施） ② 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ・中心となって取りまとめる組織や支援方法の検討 ・各団体との情報共有 ③ マップ作成（更新頻度の確認）	1 ・ 2
4	誰かが情報を受容できる	体操	① ごまんぞく体操（週1回、拠点の増加を検討） ・体操とおしゃべり ② いきいきクラブ（年10回） ③ ラジオ体操（各町有志）	3 ・ 5
5	集いの場所が増える	子育て支援	① ぽっぽの会（年10回） ② 赤ちゃん訪問（民生委員が随時） ③ 読み聞かせ活動（公園利用を検討）	3
		広報	① 学区通信「おかざき」（年6回発行、全戸配布） ② Facebook（活動紹介や記録を掲載）	4 ・ 5
		世代間交流	① 夏まつり（年1回、学区社教委員会主催） ② グラウンドゴルフ大会（年1回） ・子ども会との協働を検討 ③ 公園の清掃活動 ・ボランティアと愛護会で清掃愛護活動を実施	3 ・ 5
		研修会	① 出前講座（オンライン研修会やFacebook 勉強会） ・市民ホームにネット環境の整備を検討 ② 高年者向け講座の実施 ・総代会、社教委員会、親善クラブ、地域包括支援センターとの連携	3

15 福岡学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	10,264 人	3,970 世帯	22.3%	15.7%
令和 3 年	10,456 人	4,281 世帯	23.2%	15.2%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 見守り活動の対象者の拡大		—	
		② 見守り活動の担い手となる福祉委員の増加			
		③ 集いの場の増加と充実		—	
		④ いきいきクラブ参加者の増加		—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 青色パトロールを増員し、夜間のパトロールの実施			
		② 犬の散歩中やウォーキングの時に防犯ベストを着用し、子どもの見守り活動をアピールする		—	
		③ 防災・防犯の危険箇所の把握とマップづくり		—	
		④ 防災担当者の固定化		—	
3	学区福祉委員会活動の強化	① 女性役員の登用、活躍			
		② 留任を可とした、任期の延長による組織強化		—	
		③ 福祉委員の過度な負担の軽減		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

福岡学区のめざす姿

安心・安全で誰もが住み心地がよいと感じる福岡学区を目指す！！
～みんながお互いにあいさつや声掛けをしよう～

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	担い手が増え、 安心して地域福祉活動を継続することができる	見守り	① 高齢者の見守り（年4回） ・活動者の増加に向けた検討 ・平日頃からのあいさつや声かけの励行 ② 登下校の見守り（登校日は毎日）	1・2
		介護予防・ 体操	① いきいきクラブ（月1回） ・回数の増加を検討 ② ごまんそく体操（週1回、6か所） ・開催場所の増加や内容の検討 ・男性の参加者の増加	1
2	各種団体（総代会・民生委員児童委員協議会・学区福祉委員会・老人クラブ）と連携を図り、安心安全な地域になる	交流	① お茶飲み会などのサロン活動（町単位で1回） ② 小学校児童との世代間交流（「ふくふくタイム」「地域の方とふれあう会」） ・子どもとの交流の場の増加（小学校との連携） ③ 子育てサロン「とろっこひろば」（民生委員主体、年3回） ④ 子ども食堂に準ずる支援活動の検討 ・各種団体と連携し、学区または町任意で開催検討（年1回程度）	1
3	広報活動が充実し、適切に情報が共有できる	広報・研修・ 会議	① 研修会（年1回）、講習会（年1回） ② 福祉だよりの発行（年2回、全戸回覧） ③ ミニ福祉だよりの発行（年2回、全戸回覧） ④ 学区福祉委員会全体会議（年3回） ⑤ 女性代表者との意見交換の集い（年2回）	1・3・4
4	活動の評価を実施し、現状に応じて活動内容の見直しを図る	防災・防犯	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年2回） ・諸団体（総代・民生委員・福祉委員）との連携 ② 防犯ベスト・帽子の着用の推進 ③ 青色防犯パトロール（令和3年度2台） ④ マグネットシート「福岡学区防犯パトロール」の車への効果的着装（総代会との連携） ⑤ 愛犬パトロール・リードカバー「わんわんパトロール中」の活用 ⑥ 防災訓練（各町任意で年1回） ⑦ 防犯講習会（いきいきクラブ等で講習会の実施） ⑧ 防犯カメラの設置の推進（総代会を中心に）	1・2
		その他	① 清掃活動（各町）	2

16 城南学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	8,734 人	3,774 世帯	18.1%	13.6%
令和 3 年	8,610 人	3,897 世帯	20.4%	13.4%

資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

(2) これまでの取組

	第3次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 一人暮らし高齢者、高齢夫婦世帯の現状把握			
		② 多岐にわたる支援内容の検討			
		③ ミニサロンなど小さい単位でのコミュニケーションの場を充実し、高齢者の交流の促進		—	
		④ 多世代での交流			
2	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① 支援が必要な方や世帯を把握する仕組みづくり		—	
		② 登下校時の見守りの人員増加		—	
		③ ポルトガル語の通訳ボランティアの活躍促進			
3	学区福祉委員会活動の強化	① 総代会との連携強化		—	
		② 福祉委員会の活動の周知		—	
		③ バスで行く散策とウォーキングを実施し、見学や食事会でお互いの交流を深める		—	
		④ 学区福祉委員の意見を踏まえた研修会の実施		—	
		⑤ 福祉委員会の活動内容の明確化		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

城南学区のめざす姿

誰もがつながり 支え合い・助け合う 城南学区

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	支援対象者を把握し適切な支援を行える	防災・防犯	① 安全パトロール	1・2・3・6
			② 防災訓練（年1回） ・参加者を増やすための広報を検討 ・活動の評価を実施	
			③ 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年2～3回） ・支援が必要な個人の把握に努める ・諸団体（総代・民生委員・福祉委員）で連携	
			④ 清掃活動（年3回）	
			⑤ こども110番の旗の設置（増設を検討）	
			⑥ 黄色いタオル活動 ・全世帯に配布検討 ・Facebook等のSNSで周知	
2	様々な世代が参加し活動が活発になる	見守り	① 見守り活動（年3回）	1
			② 登下校時の見守り ・活動時のユニホーム作成や活動者の増員を検討	
3	世代間交流や近所づきあいが行われ、助けあい・支えあいの関係づくりができる	サロン	① サロン活動（町単位で年1回、学区として年6回） ・生きがいにつながる活動を実施、男性の参加促進	2・3
			② 子育てサロン（年6回） ・参加者を募るための広報の方法を検討	
			③ 世代間交流 ・高齢者・幼児・大学生の交流 ・地域と学校が連携し、防災を語る会（南中）を実施、昔遊びの会を夏祭りで開催 ・他団体との協働の検討（老人クラブ等）	
4	誰もが情報を受容している	広報・研修	① 研修会（年3回） ・参加者を増やすための工夫を実施	4・5
			② 福祉だより（年5回） ・行事案内だけでなく、防災訓練や黄色いタオルの情報等、幅広い情報を掲載	
			③ オンラインでの取り組みを検討 ・研修会やサロン活動等での活用を検討 ・参加の幅を広げる工夫の実施	
5	オンラインを活用し地域での交流や話しあいが行われている			

17 上地学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	12,377 人	4,800 世帯	16.8%	15.7%
令和 3 年	12,464 人	5,201 世帯	21.6%	14.6%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 町内単位の交流の活性化		—	
		② 高齢者の把握（一人暮らし世帯の見守り、集合住宅に住んでいる高齢者への支援）		—	
		③ 高齢者が集まれる場所づくり		—	
		④ 75 歳以上の高齢者の実情に応じた支援方法の検討			
2	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① 町内単位での世代間交流の推進			
		② 子育て支援へ的高齢者の参加		—	
		③ 「子育て対象者」の明確化		—	
3	学区福祉委員会活動のさらなる充実	① 福祉委員を各町に割り当て、若い人たちの福祉に対する関心を高める		—	
		② 災害時避難行動要支援者名簿の取り扱い方法の検討		—	
		③ 最新情報の整理、共有化		—	
		④ 災害時避難行動要支援者の支援方法の整理			
		⑤ 災害時避難行動要支援者に対する災害時訓練の実施		—	
4	地域と集合住宅との関わり	① アパートの住民に対して、地域として、仲間として一緒に実施していくための情報収集に努める		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

上地学区のめざす姿

世代を超えて みんながつながる 上地学区

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	地域住民の交流 する機会が充実 し、暮らしやす い地域になる	交流	① いきいきクラブ ② ごまんぞく体操 ③ ひとり暮らし高齢者との食事会（町ごとに年1～2回） ④ 世代間交流 ・夏祭りや球技大会、炊き出し等 ⑤ 各町での交流活動の横展開	1
2	支援活動に対す る理解が進み、 支えあい活動が 充実している	子育て支援	① 子育てサロン（年3回） ② 子ども食堂の理解の推進と支援の検討 ③ 子ども会活動の理解の推進と支援の検討	2・1
		見守り・支えあい	① 高齢者の見守り活動 ・サポーターを募集し、福祉委員と見守り訪問 ② 要支援者に対する個別訪問 ③ 困りごとアンケートの実施（5年に1回） ④ 相談先一覧表の配布 ・定期的に内容の見直し・更新の実施 ⑤ おたすけ隊	2・1
3	活動状況を知る ことができる 適切に情報を把 握し、支援につ ながることができる	広報・研修	① 福祉だよりの発行 ・上地通信（総代会） ・福祉委員会のPR ・活動者募集の呼びかけ ② 研修会（福祉研修・視察研修の年2回） ・福祉用具を使用した疑似体験等のイベントの検討 ③ Facebook の活用	3・2
4	安心安全な地域 になる	防災・防犯	① 救急医療情報キットの配布 ② 災害時避難行動要支援者の支援 ③ 災害弱者に対する防災訓練の実施検討 ④ 安全パトロール ・登下校時の見守り（毎日） ・お散歩隊・パトロール隊の検討 ⑤ 防災マップの活用	4・1・2

18 小豆坂学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	9,856 人	3,963 世帯	19.4%	15.0%
令和 3 年	9,940 人	4,226 世帯	22.2%	13.9%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援を必要とする高齢者の把握と支援の充実	① 遊びを通じた高齢者と児童のふれあいづくり	—	—	
		② 学校内でグランドゴルフ大会	—	—	
		③ サロン活動の実施	—	—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 災害時避難行動要支援者マップづくり	—	—	
		② 向こう三軒両隣の支援者づくり	—	—	
		③ 町内単位で防災訓練	—	—	
3	委員の待遇改善など、学区福祉委員会の体制強化	① 福祉委員及び役員の人材育成	—	—	
		② 実費などによる支援が必要か検討する	—	—	
4	「福祉」への関心	① 「福祉」への認知はあるため、関心、意識をさらに高める	—	—	
		② 子育て世代をどのように取り込むか検討する	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

小豆坂学区のめざす姿

地域の絆で広げる 支え合い・助け合いの輪 小豆坂学区

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的にに取り組むこと	関連する No.(★)
1	知識・経験が引き継がれ、安心して活動が継続できる	見守り	① ひとり暮らし高齢者の見守り訪問（2か月に1回） ・活動者を増やす（町ごとの福祉委員選出を検討） ・見守り訪問を拒否する対象者への対応の検討（無理して訪問せず把握に努める等）	1 ・ 2 ・ 3
2	ひとり暮らし世帯の災害時の対応策について町内で話しあい、対応策が確立される	健康維持・介護予防	① ごまんぞく体操（町単位で実施を検討） ② グラウンドゴルフ ・社会教育委員会（年2回） ・老人クラブ（年1回） ・町内会（週1回） ③ ウォーキング ・老人クラブ（年2回） ・町ごとでパトロール・清掃活動中に実施	1 ・ 3
3	ニーズに応じた高齢者の支援ができる	交流	① 歌声サロン（町内会で月1回） ② ひとり暮らし高齢者との食事会 ・町ごとまたはブロックごとの実施を検討 ③ 町内おまつりふれあいイベント ・町ごとの新年会として開催 ④ 世代間交流（親子物づくり・お祭り等） ⑤ 子育てサロン（エンジェルの会）（年3回）	1 ・ 3 ・ 4
4	誰もが活動内容を知っている	防災・防犯	① 防災訓練（町ごとで年1回） ② 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ・年1回のマップづくりと配布 ③ 安全パトロール（町ごとで月1回） ④ スクールガード（週5日） ・下校時の活動者の増加 ⑤ 清掃活動（町ごとで年2回） ・ボランティア清掃（学区全体） ・環境美化活動（年4回）	2
		広報・研修	① 福祉だよりの発行（年4回） ② 研修会（交通安全や防犯に関する講話） ③ 諸団体との連携 ・総代会・福祉委員会・民生委員児童委員協議会・交通安全防犯委員会・社会教育委員会等との連携	1 ・ 4

19 男川学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	10,293 人	4,330 世帯	22.0%	16.1%
令和 3 年	10,722 人	4,760 世帯	22.5%	14.9%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援を必要とする高齢者の把握と支援の充実	① 支援を必要とする高齢者の組長単位での把握	—	—	
		② 情報共有のネットワークづくり	—	—	
		③ 日々すれ違う時にあいさつする	—	—	
2	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① 子どもへの声かけ、見守り活動	—	—	
		② 小学生と乳幼児、高齢者との多世代交流	—	—	
		③ 父親が気軽に参加できる子育て教室などの開催	—	—	
3	身近なつながりの強化による、学区の福祉活動の推進	① 町毎のサロン実施の検討	—	—	
		② 子どもと高齢者の事業の合同実施	—	—	
		③ 参加者の固定化の防止	—	—	
4	福祉委員活動について	① 学区福祉委員活動に対する意識改革	—	—	
		② 役割分担の整理	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

男川学区のめざす姿

誰もが気軽に言葉を交わし 楽しく暮らせるまち 男川

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	子どもから大人まで、多くの学区民が活動に参加している	広報・研修	① 福祉だよりの発行（年1回） ・発行回数増加の検討 ・年間の活動報告や高齢者のためになる情報を掲載 ② SNSの活用（Facebookの活用） ・説明会・勉強会の実施を検討 ・イベント等を投稿し、多世代に向けて周知 ③ 研修会（年1～2回） ・おたすけ隊の発足を検討	1 ・ 2 ・ 3
2	地域福祉活動が活発に実践される	防災・防犯	① 防災訓練（総代会主催で年1回） ② 安全パトロール（年2回） ・子どもを見守るため、月1回パトロールを実施 ③ 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年1回） ④ 清掃活動（町ごとに年1～2回）	2
3	団体同士が情報を共有することができる	見守り	① 独居高齢者の見守り活動 ・福祉委員会は年6回、民生委員は随時実施 ② 登下校の見守り（毎日） ・月1回パトロールを実施	2 ・ 3 ・ 4
4	実態に合わせた支援ができる	サロン	① 子育てサロン（年6回） ② いきいきクラブ ・新たな体制づくりを検討 ③ サロン活動（年2回） ④ 世代間交流 ・小学校と連携 ⑤ 小地域福祉活動の推進 ・各町の実情に合わせて実施を検討	1 ・ 2 ・ 4

20 美合学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	6,623 人	2,722 世帯	24.3%	13.4%
令和 3 年	6,503 人	2,925 世帯	25.6%	11.3.%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 高齢夫婦世帯の訪問		—	
		② 関連団体との連携強化		—	
		③ サロン・クラブ活動参加者の固定化の解消			
2	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① 民生委員児童委員の支援内容の P R		—	
		② お母さんがひとりで抱え込まないように、近所の協力的な支援活動		—	
3	人材の育成による、学区福祉委員会の強化	① 人材の発掘、育成		—	
		② 福祉委員活動の P R		—	
		③ 福祉委員の勉強会の実施		—	
4	災害時の支援体制	① 消防 O B、自主防災、各種団体が参加した町内ごとの防災訓練の実施			
		② 関連団体における個人情報の共有		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

美合学区のめざす姿

みまもりあい あかるい笑顔があふれ いきいき・支え合うまち

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	地域のいろいろな人の参加が増え、活動が活発になる	見守り	① ひとり暮らしの見守り活動（概ね月1回） ② 75歳以上のみの世帯の訪問（年3～4回） ・対象者の見直し ・心配な世帯の洗い出し	1
2	一緒に活動する仲間が増える	防犯・防災	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ・高齢者以外の名簿登録者に対する支援方法の検討	1
3	必要な人に情報が届く	広報・研修	① 研修会（年1～3回） ② 福祉だより（年6回） ③ SNSの活用 ・ツールの見直し・有効なツールの活用 ・Facebookの更新 ④ 団体間の情報交換会（概ね年2回） ・各団体の長に呼びかけ	2・3
		サロン	① サロン活動（年10回） ② いきいきクラブ（年10回） ③ ごまんぞく体操（週1回） ④ 子育てサロン（年10回）	1・2

21 河合地区（生平学区・秦梨学区）



（１）学区の概況

	学区	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	生平	1,399 人	479 世帯	27.5%	11.7%
	秦梨	1,021 人	387 世帯	33.8%	13.6%
	河合地区	2,420 人	866 世帯	30.2%	12.5%
令和 3 年	生平	1,291 人	497 世帯	32.8%	10.5%
	秦梨	897 人	378 世帯	36.5%	10.9%
	河合地区	2,188 人	875 世帯	34.3%	10.6%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

（２）これまでの取組

第 3 次計画における課題		取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者の健康生活と環境の構築	① 高齢者への「介護予防」と「生きがいづくりの行事」を継続していく	—	—	
		② 高齢者が自活できる環境づくり	—	—	
2	安心して子育てができる地域づくり	① 子どもから高齢者までが参加できる交流会の実施	—	—	
		② 子育て経験者と子育て中の母親との交流会の実施	—	—	
		③ 子育て中の母親が働ける地域づくり	—	—	
3	地域全体のさらなる安全確保	① 地域の各種団体、小中学校、保育園との情報交換会及び勉強会の実施	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

河合地区（生平学区・秦梨学区）のめざす姿

地域全体のつながりや思いやりのある人間関係を築こう

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的にに取り組むこと	関連する No.(★)		
1	福祉委員の活動 内容が周知され、理解されている	見守り	① 高齢者の見守り活動（2か月に1回） ・総代や民生委員が中心となって実施 ・感染症の状況をみながら、児童と一緒に訪問することを検討 ・訪問拒否や、家に閉じこもりがちになっている人の対応方法を検討	3・6		
2	情報共有でき、 困りごとを相談 できる仕組みが できる	体操等の 介護予防	① いきいきクラブ（再開を検討） ② グラウンドゴルフ ・生平：週1回（毎週土曜日） ・秦梨：月2～3回 ③ ごまんぞく体操（週1回） ・4か所（生平市民ホーム、茅生の里、秦梨市民ホーム、才栗公民館）で実施 ・感染症対策（アルコール消毒・体温測定等）を行い、可能な範囲で実施	3・4		
3	担い手が増え、 安心して活動が できる					
4	感染対策を講じ て活動できる	世代間 交流	① 餅つき大会 ・福祉委員会中心に生平小学校と合同開催 ② ひな祭り ・長命クラブ中心にほうきづくりやシイタケ栽培 ③ 昔遊び ・富士クラブ中心で、生平小学校を活用 ④ 米づくり（学校や個人との協力） ⑤ 三河富士登山 ・生平学区にて登山とシシ汁で懇親会を開催 ⑥ ホタル保護活動（河合中学校中心） ⑦ 愛鳥活動（生平小学校の縦割り活動）	3・4・5		
5	子どもも親も、 安心して過ごせ る地域になる		防災・防犯		① 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ・総代、民生委員で実施 ② 安全パトロール（年4回）	3
6	安心して外出が できる		各種団体との連携		① 保育園・小学校パトロール（毎朝） ・老人クラブ中心に秦梨学区で実施 ② 小中協議会（年4回） ③ 研修会の実施 ・福祉委員会周知のため、各種団体や住民向けの研修会を実施	1・2・3・5

22 緑丘学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	10,682 人	4,381 世帯	22.5%	14.8%
令和 3 年	11,094 人	4,662 世帯	23.7%	15.2%

資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

(2) これまでの取組

	第3次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 上手く連絡を取れるルール・仕組みづくり	—	—	
		② 若い世代の参加促進	—	—	
		③ 高齢者の状況を踏まえた支援の実施	—	—	
2	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① 自主的に活動できる仕掛け・仕組みづくり	—	—	
		② 家庭の状況を踏まえた支援の実施	—	—	
3	学区における福祉活動のPRの強化	① 学区福祉委員会の認知度を高める	—	—	
		② ホームページ内容の更新、周知	—	—	
		③ 地道な活動の継続実施	—	—	
4	福祉委員活動の充実	① 活動者の勉強会の実施	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

緑丘学区のめざす姿

元気・笑顔あふれ 支え合い・助け合う 緑豊かなまち 緑丘

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	若い人の理解が 深まり安心して 活動を継続でき る	見 守 り	① 見守り活動（75歳以上を対象に2か月に1回） ・犬の散歩中の見守り活動「ながら見守り」等の 日常生活の中でできる活動を検討 ② ひとり暮らし激励訪問（2か月に1回） ③ 登下校の見守り活動 ・毎日の登下校時は交通指導員が実施、年に2回は ふれあい委員や保護者が実施（愛のパトロール） ④ こども110番の家 ・協力世帯増加に向けて働きかける	1
2	適切に情報が共 有されている	交 流	① 子育てサロン（年5回） ・開催回数の増加を検討 ・参加者が担い手になるよう働きかける ② 世代間交流（町ごと） ・交流の場を全町に拡大 ③ 子ども食堂（月2回） ④ モルック大会（年1回）	1 ・ 2 ・ 3
3	誰もが活動に参 加し、地域全体 で活動が活発に なる	体 操 ・ 介 護 予 防	① いきいきクラブ（年10回） ② ごまんぞく体操（週1回、14町で18か所） ③ ラジオ体操（毎日） ④ グラウンドゴルフ（町ごと） ⑤ ゲートボール（週1回） ⑥ 太極拳（週1回）	1 ・ 2 ・ 3
		広 報 ・ 研 修	① 研修会（施設訪問・見学）（年1回） ・各団体との情報交換会の実施を検討 ② 福祉だよりの発行（回覧にて全戸配布） ③ SNSの活用（Facebook等の活用）	2 ・ 3
		防 災 ・ 防 犯	① 交差点での見守り（組織での活動を検討） ② 救急医療情報キットの配布 ③ 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年2回） ④ 防災訓練（年2回） ⑤ 安全パトロール（月1回） ⑥ 青色防犯パトロール（月4回、登録台数の増加） ⑦ 清掃活動（全町）	1 ・ 2 ・ 3

23 竜谷学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	2,951 人	1,201 世帯	33.0%	11.5%
令和 3 年	2,814 人	1,192 世帯	34.6%	11.2%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 行政支援の中で知らないこともあるため、回覧や福祉だよりで周知	—	—	
		② 買い物支援、ごみ出し支援、移動支援の充実	—	—	
		③ 防災活動も含めた見守り活動、声かけ運動の充実	—	—	
		④ 独居老人の見守り活動の継続	—	—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 災害時避難行動要支援者の把握と協力者の充実	—	—	
		② 防災グッズの使い方など防災に関する講座の実施	—	—	
		③ 子どもの登下校の見守り支援	—	—	
3	他団体との連携など、学区福祉委員会の強化	① 多世代交流の実施	—	—	
		② 関連団体の連携強化	—	—	
		③ 学区福祉委員会活動の啓発	—	—	
		④ 若い世代にも福祉に関心を持ってもらえる活動の検討	—	—	
4	福祉委員活動の充実	① 小地域で実施することで、活動の活性化を図る	—	—	
		② サロンなど勉強会で知識の増加を図る	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

竜谷学区のめざす姿

みんなで支え合い、助け合う 福祉のまち 竜谷学区

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	様々な世代の参加者が増え活動が活発になる	見守り	① 独居高齢者の訪問（年6回） ・対象者の見直し・拡大 ② 登下校の見守り ・学区諸団体ごとの活動拡大 ・愛犬パトロールメンバーの機動性発揮	1・3
2	他団体と協力し、情報共有や交流ができてい	健康増進	① ごまんそく体操の仲間づくり ・新規参加者の拡大 ② 歩く仲間づくり ・学区内ウォーキングの拡大 ③ フレイル予防講座 ・年度ごとの参加者の拡大	1・2
3	安心安全な地域になる	交流	① サロン活動の推進 ・竜宮、おしゃべりサロンの推進 ② 世代間交流 ・ふれあい、給食を食べる会の推進 ③ ボランティア活動の推進 ・ポッチャ等の拡大	1
4	適切に情報が共有できている	広報・研修・会議	① ミソ端会議重点項目の推進 ・重点項目について会議を開催 ② 福祉の見直し ・設立20周年記念行事から住民間交流の拡大	1・2・4
		防災・防犯	① 安全講話の推進 ・防災・防犯の最新情報の提供 ② 学区防災訓練の継続 ・要支援者が積極的に参加できるよう、活動内容の検討	1・3

24 藤川学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	6,685 人	2,956 世帯	22.1%	11.3%
令和 3 年	7,101 人	3,287 世帯	24.7%	11.8%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 高齢者の移動手段として、買い物バスの維持	—	—	
		② 一人暮らし高齢者、高齢夫婦世帯の見守り訪問の充実	—	—	
		③ 集いの場の充実	—	—	
2	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① 支援を必要としている家庭の実態把握	—	—	
		② 子育てを終えた方の協力を得て、幼児を持つ母親と幼児の交流の場をつくる	—	—	
		③ 親子で参加する地域活動の実施	—	—	
		④ 登下校見回りの日をつくる	—	—	
3	活動のPRなど、学区福祉委員会活動のさらなる強化	① 敬老会や夏祭り等の行事を通じた福祉活動のPRの強化	—	—	
		② 活動リーダーの養成	—	—	
		③ 福祉委員会と社教委員会福祉部会との役割の整理	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

藤川学区のめざす姿

学区民はみんな家族 思いやりと絆のまち“ふじかわ”

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的にに取り組むこと	関連する No.(★)
1	買い物バスを継続する仕組みができる	外出支援	① 買い物バス（月3回から月4回へ） ・感染症対策を講じて定員を戻す ・バスがサロンの役割を果たしている	1
		サロン	① 子育てサロン（年2回） ・民生委員中心による活動 ② ごまんぞく体操（週1回、4か所） ③ 健康体操（月1回、2か所） ・感染症対策を講じて再開 ・むらさきかん・蓑岡地縁会館・荒古公民館・簗川一区公民館で開催	2
2	支援を必要とする人を把握し、安心して過ごせる地域になる	防犯・防災	① 救急医療情報キットの作成・配布 ・対象者の見直し ・配布した世帯について、定期的な情報更新 ② 安全パトロール（町ごとで実施） ・感染症対策を講じて活動を再開 ③ 防災訓練（学区で年1回、町ごとで年1回） ・感染症対策を講じて活動を再開	2
		見守り	① ひとり暮らし高齢者の訪問（年3回） ・総代と民生委員で活動 ② 登下校時の見守り（毎日）	2
3	福祉委員会の認知度up	広報・啓発	① おたよりの発行（年1回回覧） ・福祉委員会活動の周知のため広報活動に注力 ・買い物バスや行事、イベントの情報等、写真を交えて掲載	3

25 山中学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	4,697 人	1,848 世帯	27.8%	14.1%
令和 3 年	4,461 人	1,881 世帯	30.5%	13.0%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① 組単位での把握の強化			
		② 支援拒否者へのアプローチの検討		—	
2	新たな福祉課題を抱える人（ニート・引きこもり・生活困難など）の把握と支援の方法についての理解	① 家族からの SOS や特殊なサインが出ているときの対応の検討		—	
		② 学習会等での理解の促進		—	
		③ 民生委員を中心に状況把握を行う		—	
		④ 家族への支援の実施		—	
3	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 声かけ、あいさつ運動			
		② 学区全体の情報の共有		—	
		③ 警察との連携		—	
4	福祉委員活動の充実	① 福祉委員会の役割の明確化		—	
		② 福祉委員の相談先の明確化		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

山中学区のめざす姿

みんなが住みよい 安心・安全な山中学区

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	福祉活動に若い 人の参加（担い 手・参加者）が 増え活動が活発 になる	見 守 り	① 激励訪問（年5回） ・高齢者2人世帯の追加等の対象者の見直し ・実態調査の実施を検討 ② 登下校の見守り（毎日） ・ユニホーム等の工夫や「ながら見守り」の検討 ・担い手の確保	1 ・ 4
2	移動手段が確保 され、安心して 活動に参加でき る	交 流	① 羽栗サロン活動（月1回） ・担い手の確保 ② お茶会（年2回） ・担い手の確保 ③ ひとり暮らし高齢者との食事会（年1回） ④ 子育てサロン（年6回） ⑤ 世代間交流 ・盆踊り・歩け歩け大会・ファミリースポーツ大会	1 ・ 2 ・ 5
3	適切に情報が共 有できている	介 護 予 防 ・ 体 操	① ふれあい健康部（月1回） ・男性の参加者を増やす ② ごまんぞく体操 ・担い手の増加 ③ ラジオ体操 ・担い手の確保、開催場所の検討 ④ グラウンドゴルフ	1 ・ 2 ・ 5
4	安心安全な地域 になる	広 報 ・ 研 修	① 研修会 ・地元企業や地域包括支援センターに相談、講師依頼 ② 福祉だよりの発行（年3回） ・福祉委員会の活動報告 ③ ホームページ「おじぎ草」（周知）	1 ・ 3
5	国籍に関わらず 誰もが地域の行 事に参加してい る	防 災 ・ 防 犯	① 安全パトロール（月1回） ② 防犯カメラ・ベル、防犯灯の設置 ・要望に応じて随時設置を検討 ③ 防災訓練（年1回） ・中学生の参加促進 ④ 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ⑤ 青色防犯パトロール（月15回、学区内4台）	1 ・ 4 ・ 5

26 本宿学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	6,667 人	2,655 世帯	29.7%	13.1%
令和 3 年	6,351 人	2,722 世帯	33.2%	11.6%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 高齢者訪問への近隣の人や組長などの同行	—	—	
		② 家に閉じこもってしまいがちな人の「いきいき活動」への積極的な勧誘	—	—	
		③ まちづくり協議会と連携し、高齢者向けスポーツクラブの誘致	—	—	
2	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① 若いお母さんの悩みを相談できる場の増加	—	—	
		② 世代間交流の充実	—	—	
		③ 町が実施する“子どもたちの声をもっと聞こえる”施策への積極的な参加	—	—	
		④ 子育て支援の活動者の拡大策の展開	—	—	
3	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 防災・防犯講座、危険箇所点検等を通じた防災・防犯意識の向上	—	—	
		② 各町が実施する防災訓練への積極的な参加	—	—	
		③ 「黄色いリボン」の活動への支援・協力	—	—	
		④ 登下校パトロールの継続的な実施	—	—	
		⑤ 総代会と連携し監視カメラの設置の推進	—	—	
4	市民ホーム活用策の推進	① 男性の会の立ち上げ促進	—	—	
		② 男性の料理教室の開催	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

本宿学区のめざす姿

みんなで取り組む 明るく楽しいまちづくり

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	移動手段が確保できる、また身近に参加できる場所がある	高齢者支援	① 高齢者の見守り訪問活動（年6回） ② 高齢者にやさしいまちづくり ・総代会、まちづくり協議会との連携強化 ・移動手段が無い等、支援を必要とする人へのフォローを検討	1 ・ 2 ・ 4
		交流	① 子育て支援活動「カンナの会」（年8～9回） ② 世代間交流 ・運動会、盆踊り、夏祭り等 ・後継者の確保、参加者の拡大 ③ 子ども食堂（月1回（町内の公民館）） ・市民ホーム等での開催も検討	1 ・ 2 ・ 3
2	様々な世代への理解が深まり、担い手も参加者も増え、福祉活動が活発になる	健康増進	① ふれあい健康クラブ（月2回） ・感染症対策をして実施 ・声かけによる参加促進 ② ごまんぞく体操 ・週1回、6か所（鶴巣、東、中、大幡、上衣文、緑町）で実施、他会場での開催を検討 ・対象者に呼びかけ、参加者の増加 ③ グラウンドゴルフ（年3回老人クラブ大会） ・各クラブ活動の支援 ④ ラジオ体操（毎日、他町への拡大を検討）	1 ・ 2 ・ 3
3	身近な情報が発信され、福祉活動が広がる地域	研修・広報・会議	① 福祉だよりの発行（年4回） ② Facebook の活用 ・活動事例やイベントの紹介等を随時更新 ③ 研修会（年2回）	2 ・ 3 ・ 4
4	誰もが安心、安全に暮らせる地域	防災・防犯	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ・対象者への具体的な支援方法を検討 ② 防災訓練（学区・全町） ③ 児童の見守り活動 ・北部地域での活動者の拡大を検討 ④ 危険箇所の点検（年3回） ⑤ 黄色いリボンでパトロールの会（毎日） ⑥ 防犯カメラの設置（必要に応じて要望）	2 ・ 4

27 奥殿学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	1,949 人	659 世帯	26.7%	16.8%
令和 3 年	1,870 人	660 世帯	27.8%	12.5%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援を必要とする高齢者の把握と支援の充実	① 支援が必要な時に相談相手になる	—	—	
		② 移動支援の充実	—	—	
		③ 若い人が学区に残る方法の検討	—	—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 関連団体との情報共有	—	—	
		② 災害時避難行動要支援者名簿の活用方法の検討	—	—	
		③ 見守り活動、青色パトロールの充実	—	—	
3	学区福祉委員会活動の周知と体制の充実	① 地域の結びつきの強化	—	—	
		② 町単位のサロン活動の実施の検討	—	—	
		③ 若い人の支援者を増やしていく	—	—	
4	交通手段の充実	① スクールバスの導入検討	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

奥殿学区のめざす姿

みんなの笑顔をはぐくむ地域づくり

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	高齢者の移動手段が充実している	サロン	① サロン活動（月1回～2回） ・2か所で実施	1 ・ 2 ・ 3
			② いきいきクラブ（月1回）	
			③ ごまんぞく体操（2か所で週1回） ・歩いて行ける範囲（町ごと）での実施検討	
			④ ひとり暮らし高齢者との食事会（年1回）	
			⑤ 世代間交流 ・グラウンドゴルフ、ミニバレー、料理教室	
2	感染症対策を講じて活動が継続できる	防災・防犯	① 防災訓練（町ごと年1回） ・避難所体験を内容に入れる ・ハザードマップの確認	2 ・ 3 ・ 4 ・ 5
			② 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年2回）	
			③ 安全パトロール（週4回）	
			④ 防犯カメラの設置 ・適宜危険箇所を把握し、増設を検討	
3	活動参加者が増えて活動が活発になる	見守り	① 高齢者の見守り活動 ・独居高齢者を対象に実施	2 ・ 3 ・ 4
			② 登下校の見守り	
4	安心安全な地域になる	広報・研修	① 福祉だよりの発行（年2回） ・全戸や老人クラブ会員への配布を検討	2 ・ 3 ・ 5
			② 研修会（年1回）	
			③ Facebook の更新 ・季節に合わせて各事業をPR	
5	関係団体と連携し、情報が共有されている			

28 恵田学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	1,089 人	333 世帯	19.1%	14.3%
令和 3 年	994 人	327 世帯	21.3%	10.3%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援が必要な高齢者の把握と支援の充実	① 地域サロンへの参加の促進	—	—	
		② 災害時避難行動要支援者の情報共有のあり方の検討	—	—	
		③ 新しい地区のつながりの強化	—	—	
		④ 一人暮らし高齢者の見守り	—	—	
		⑤ 支援が必要な高齢者の把握と支援内容の検討	—	—	
2	安心して子育てが行える地域づくり	① 登下校の見守り	—	—	
		② 世代間交流の行事を継続的に取り組む	—	—	
3	組織間の相互理解を深め、連携して学区の地域福祉を推進する	① 地区内の人材の確保	—	—	
		② 民生委員、総代、社教委員、福祉委員などの連携の強化	—	—	
		③ 他学区との交流の促進	—	—	
4	移動支援の充実	① 移動バスの検討	—	—	
		② ボランティアによる送迎の検討	—	—	
		③ 助けあいグループづくり	—	—	
5	災害時の支援体制	① 災害時の安否確認、要支援者の具体的支援方法の検討	—	—	
		② 安心手帳を活用した避難時の内服薬の把握	—	—	
		③ 自助、共助の精神の醸成	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

恵田学区のめざす姿

**誰もが活躍し、皆で助け合う、アットホームなまち
「恵田学区」**

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	新規活動者が増えて活動が活発になる	高齢者支援	① ひとり暮らし高齢者の見守り活動（年2回）	1・2・3・5
2	活動の内容が増え、充実する		② ひとり暮らし高齢者との食事会（年1回の敬老会）	
3	移動手段が確保され、安心して活動に参加できる	交流	③ 移動手段の検討 ・高齢者同士での助けあい ・乗合タクシーの配備（地域内で運用方法を検討し、事業者に要請） ・地域コミュニティバスの巡回（市へ要望）	1・2・7
4	他地域との交流機会が増え、活動が活発になる		① いきいきクラブ ・年10回（健康体操・出前講座）の活動実施	
5	安心安全な地域になる	広報・研修	② サロン活動（月1回、雑談会）	1・4・6
6	委員構成を見直し、持続可能な福祉活動に取り組むことができる		③ 世代間交流（年5回） ・グラウンドゴルフ・ソフトミニバレー・ファミリーウォーキング・学区運動会・収穫感謝祭	
7	高齢者が生き生きと活躍できる	防災・防犯	① 福祉だよりの発行（年2回）	1・2・5
			② 研修会（年1回）	
			③ 福祉委員会の組織体制の見直し ・役員・委員の体制の見直しを検討 ・部会等の組織体制の見直しを検討 ・福祉活動に興味・関心のある人材の発掘・育成	
			① 登下校時の見守り（登校日）	
			② 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年2回）	
			③ 防犯・安全パトロール（月1回）	
			④ 防災訓練（年1回） ・委員の負担軽減のため、実施方法の見直しを検討	

29 細川学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	10,371 人	3,870 世帯	26.0%	18.7%
令和 3 年	10,424 人	4,078 世帯	29.2%	17.3%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 集いの場づくり、公民館や市民ホームを活用しての各種サロンの増設			
		② 高齢者の支援ニーズを把握するため、「福祉だより」による要望・意見の調査を実施する			
		③ 若い世代へ意識を持ってもらえるよう PR の強化		—	
		④ 年少者との交流を深める行事の促進		—	
2	支援を必要とする子育て世代の把握と支援の充実	① 関連団体との連携、町の組織の協力の促進		—	
		② 子どもたちとの話し合いの機会、多世代交流の充実		—	
		③ 母子が常に 1 対 1 にならないよう、ストレスを発散できる場づくり		—	
		④ 子育てが終わった人をサポーターとして確保・把握		—	
3	諸団体との連携による学区福祉委員会活動の強化	① 諸団体のメンバーの一部に福祉委員になってもらう		—	
		② 諸団体と一体となった活動の強化		—	
		③ 定期的に楽しめる交流会の実施		—	
		④ 諸団体の行事での学区福祉委員会の PR		—	
4	地域福祉活動の PR	① 各活動の PR 方法の検討			
		② 若い人材の発掘と若返り		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

細川学区のめざす姿

「互助」「近助」で支え合い・助け合う細川学区

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	高齢者支援活動 が充実する	見守り	① 見守り活動（月1回） ・活動者や他団体との協働、範囲、基準、訪問記録の情報活用方法の検討 ② ほっとステーション（4地区）	4・1・3・6
2	地域が見守り、 安心して子育て ができる	サロン	① いきいきクラブ（月1回） ・町ごとにリーダーを育成 ・組織体制の見直し	1・2・5
3	オンラインも活 用しながら必要 な情報が行き届 く		② サロン活動（月1回公民館で開催） ・市民ホームを通年開放し居場所にする	
4	安心安全な地域 になる		③ ごまんぞく体操 ・学区福祉委員会の協力を検討	
5	担い手が確保・ 育成され、安心 して活動が継続 できる		④ 子育てサロン（年4回） ・毎月遊びの場を提供	
6	SOSに早期に 気づき、地域で 助けあえる		⑤ 世代間交流 ・老人クラブとの連携や幼稚園・小学校との交流、餅つき大会の開催	
7	他団体と緊密に 連携が取れる	学びの場	① 研修会（年2回） ・オンラインによる研修の取り入れ ・区民への周知・参加の呼びかけ ② 傾聴を学ぶ ・聞き取った情報の対応方法や解決のための組織づくりを検討	1・3・5・6
		広報	① 福祉だよりの発行（年3回） ・市民ホームの行事についての情報提供 ② SNS（Facebook）の活用 ③ 冊子「地域の福祉」「支え合って生きるしあわせ」の見直し・増刷・配布	3・5
		防災・防犯	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年2回） ・個人台帳の作成、総代・民生委員・学区福祉委員での情報共有及び活用 ② 防災訓練（町内会中心に年1回開催） ・障がい者も参加できる防災訓練を検討 ③ 町籍簿の確認	4・7

30 岩津学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	8,021 人	3,079 世帯	22.4%	17.9%
令和 3 年	8,172 人	3,324 世帯	24.0%	17.0%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 関連団体との連携強化	—	—	
		② 地域の人々が小規模で集まる場所づくりのサポート	—	—	
		③ 引きこもりがちな高齢者や一人暮らし高齢者、高齢夫婦世帯の把握	—	—	
2	支援を必要とする子育て世帯の把握と支援の充実	① 関連団体との連携強化、情報共有	—	—	
		② 人材の発掘	—	—	
		③ 多世代交流の充実	—	—	
3	専門化など、学区福祉委員会の機能の強化	① 回覧板を回す際などに隣同士で声かけ	—	—	
		② 外部人事の利用、あて職からの脱却など後任者やリーダーの育成	—	—	
		③ 地区や支援が必要な人の状況に合わせた支援の実施	—	—	
		④ 手当ての充実の検討	—	—	
4	移動支援の充実	① 集いの場への送迎の検討	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

岩津学区のめざす姿

声掛けから始まる、思いやりのあるあたたかな地域づくり

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	担い手が増えて 活動が活発になる	見守り	① 見守り活動（年4回） ② 登下校の見守り活動（毎日朝・夕） ・活動者を増やすことを検討	1 ・ 4 ・ 5
2	感染対策を講 じ、活動が継続 できる	交流	① いきいきクラブ（年10回） ・北部地域包括支援センターとの連携・講師依頼 ② 世代間交流 ・コミュニティカフェ（子ども食堂80食） ・フードパントリー（独居高齢者20～30食） ・敬老会で、中学生や高校生との交流を検討 ③ サロン活動（町単位での活動を推進）	1 ・ 2
3	買い物支援が積 極的にできる 体制をつくる	子育て支援	① 子育てサロン（年6回） ② 赤ちゃん訪問（必要に応じて訪問） ③ 小・中連絡協議会（学期ごと） ・学校と地域（総代・民生委員・福祉委員等の諸 団体）との連携・情報共有 ④ 子育てサポートイベント（公園の有効活用）	1 ・ 2
4	適切に個人情報 が共有でき、 対象者を把握で きる	助けあい	① 声かけ活動（ひとり暮らし高齢者へ日常的に） ・隣近所の情報共有 ② 買い物支援 ・民生委員中心に、岩津住宅内の支援を実施 ・情報の収集・発信により、民間サービスを活用 ・支援者の負担が増えないよう配慮	1 ・ 3 ・ 4
5	安心安全な地域 になる	広報・ 研修	① 福祉だよりの発行（年4回） ・担当者の発掘・育成 ② Facebook（学区内の活動や情報を発信） ③ 福祉に関する勉強会（全体会議で勉強会の実施）	1
		防災・ 防犯	① 安全パトロール ・年3回（春・秋・年末）の交通安全週間に合わ せて学区内で協力して実施 ② 防災訓練（年1回） ③ 清掃活動（町ごと）	4 ・ 5

31 大樹寺学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	13,292 人	5,638 世帯	25.7%	12.8%
令和 3 年	13,269 人	5,996 世帯	27.0%	12.5%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 集いの場の充実	—	—	
		② 訪問頻度の検討	—	—	
		③ 対象者の関心のあるテーマの把握	—	—	
2	学区独自の防災・救急体制の構築	① 災害時避難行動要支援者名簿の活用	—	—	
		② 関連団体との連携強化	—	—	
3	学区福祉委員会の充実	① 福祉委員活動の P R	—	—	
		② 若い人材の発掘、育成	—	—	
		③ 他役員兼務の解消	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

大樹寺学区のめざす姿

誰もが笑顔で暮らせる 安心・安全なまちづくり

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	新規活動者が増えて活動が活発になる	見守り訪問	① 見守り訪問活動（町ごとで月1回） ・対象者の見直し・訪問頻度の検討 ② 年末激励訪問	3 ・ 4
2	歩いて行ける場所にサロンがある	交流	① いきいきクラブ（年10回） ② 子育てサロン（年5回） ③ ごまんぞく体操（町ごとで実施） ④ 居場所づくり ・オレンジカフェやお茶飲み会等を検討 ⑤ 各種スポーツ交流 ・ラジオ体操 ・グラウンドゴルフ ・ウォーキング	1 ・ 2
3	情報を把握し適切な支援ができる	広報・研修	① 福祉だよりの発行（年2回、回覧） ② 研修会 ・福祉について理解を深める研修会の実施を検討 ③ 福祉委員の集まる機会づくり ・委員同士の意識の共有	1 ・ 3 ・ 5
4	安心安全な地域になる	防災・防犯	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理・活用 ・町ごとで実施 ・総代・民生委員・福祉委員で活用方法の検討 ② 防災訓練 ・災害時避難行動要支援者の参加を呼びかけ ③ 登下校の見守り活動（町ごとで実施） ・見守り隊の統一を検討 ④ 安全パトロール ・全町が実施できるよう検討	1 ・ 3 ・ 4
5	福祉委員会の理解が広がり、一緒に活動する仲間が増える			

32 大門学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	12,384 人	5,075 世帯	16.5%	16.7%
令和 3 年	12,670 人	5,449 世帯	19.2%	15.8%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援が必要な高齢者の把握と支援の充実	① 見守り活動の充実（認知症の方、防犯、子ども）	—	—	
		② 認知症等で行方不明になる可能性のある高齢者の徘徊対応として、見守りボランティアを登録し、発見を早くする	—	—	
		③ 認知症の方のサポート方法を学ぶ	—	—	
		④ 住民同士の相互支援で高齢者の把握	—	—	
		⑤ いきいきクラブの拡充	—	—	
2	新たな福祉課題を抱える人の把握と支援の方法について理解	① ニートや引きこもりの把握方法の検討	—	—	
		② 生活保護世帯の見守り、生活課題を抱えている人の相談への対応	—	—	
3	要支援者名簿の活用など、さらなる防災・防犯体制の充実	① 災害時避難行動要支援者名簿によるマップづくりの拡充	—	—	
		② 防災マップの町ごとの作成、危険箇所の把握と点検	—	—	
		③ 個人情報の保護を踏まえた情報共有	—	—	
4	支援が必要な人の把握、支援	① 地域の人々が協力した見守りの充実	—	—	
		② 新規登下校ボランティアの増加	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

大門学区のめざす姿

笑顔で楽しくいきいきと 安心安全な地域づくり

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	適切に情報が共有できている	見 守 り	① 見守り活動（2か月に1回） ・対象者の検討、総代・民生委員との連携強化	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
			② 登下校の見守り ・活動者を10名程度から増加	
			③ ワンワンパトロール ・お散歩用のひもにステッカーをつける等の周知 ・新規活動者の増加	
			④ 寝たきり高齢者への訪問（老人クラブ中心に年2回） ・90歳以上の高齢者を対象	
2	安心安全な地域になる	サ ロ ン	① いきいきクラブ（月2回） ・参加者を増やすため周知	1 ・ 2 ・ 3
			② 子育てサロン（月1回）	
			③ サロン活動（全町での実施、町ごとに年2回） ・担い手の発掘	
			④ ごまんぞく体操（全町での実施、週1回） ・担い手の発掘	
			⑤ 世代間交流（小学校・幼稚園との交流）	
3	活動者が増えて活動が活発になる	広 報 ・ 啓 発	① 福祉だよりの発行（年1回） ・各行事の写真を掲載	1 ・ 2 ・ 3 ・ 5
			② SNSの活用（Facebook等） ・若い人への情報発信のため、活用を検討	
4	充実した活動ができる	防 災 ・ 防 犯	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年2回） ・地域支援者の選定、名簿の活用方法の検討 ・名簿未登録で支援を必要とする人の発掘・整理 ・総代会、民生委員児童委員協議会、福祉委員会と連携協議	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
			② 防災訓練（町ごとに年1回）	
			③ 安全パトロール（週6回、2台出動） ・ユニフォームの作成等を検討	
5	ごみの分別が周知でき、気持ちよくごみステーションが利用できる			

33 矢作東学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	12,494 人	5,098 世帯	21.8%	13.3%
令和 3 年	12,765 人	5,526 世帯	23.9%	13.2%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 見守り活動の充実のため、見守り支援者と訪問回数の増加	—	—	
		② サロン活動の充実	—	—	
		③ 高齢者の方を会場に移動するための手段の充実	—	—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 高齢者も参加した防災訓練の充実	—	—	
		② 災害時の避難経路の確保	—	—	
		③ 防災・防犯に関する勉強会の開催	—	—	
		④ 学区内の危険箇所をマップに記入して共有	—	—	
3	福祉委員の若返りなど、学区福祉委員会の体制強化	① 福祉活動の若者たちへの P R	—	—	
		② 高齢者と若い人の意見交換会を行い、考え方を共有する	—	—	
		③ 関係団体との連携強化	—	—	
		④ 若い人材の発掘、育成	—	—	
4	子育て支援の充実	① 幼児とのふれあい活動の充実	—	—	
		② 未就学児の子育て支援の充実	—	—	
		③ 小学生の放課後の居場所づくりの検討	—	—	
5	福祉委員活動の充実	① 活動資金の確保	—	—	
		② ボランティア活動の充実	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

矢作東学区のめざす姿

**思いやりの心で、安全で安心して、生き生きと暮らせる
街を築こう！！**

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	学区内の様々な 地域から参加で きる	見 守 り	① 登下校の見守り活動（週2回） ・老人クラブやSSVによる活動 ② 友愛訪問（年4回） ・民生委員と総代による活動	5
2	若い人の参加が 増え活動が活発 になる	広 報 ・ 研 修	① 福祉だよりの発行（年4回） ② 研修会 ・福祉委員を対象にした研修会を年2～3回実施 ・学区民を対象にした研修会を年2回実施	3・4 1・2・
3	若い人も一緒に 地域づくりがで きる	交 流	① サロン活動（学区で年1回、町ごとに年2回） ・集まりやすい場所でのサロンを増加 ② ごまんぞく体操（各町で実施） ③ いきいきクラブ（年12回） ④ ひとり暮らし高齢者との食事会（年1回） ⑤ 子育てサロン ・バンビの会（未就園児）を年2回実施 ・ホットタイム（乳児）を年9回実施 ⑥ 世代間交流（年3回） ⑦ 子ども食堂（年12回） ・食堂や食料配布等、状況に応じて活動	2・3・4
4	子どもだけでなく若い人にも伝 承し、次の世代 に活動をつなが ることができる	移 動 手 段 の 確 保	① 活動場所への送迎 ・企業の社会貢献活動の活用を検討	1
5	安心安全な地域 になる	防 災 ・ 防 犯	① 救急医療情報キットの確認（年4回） ・友愛訪問に合わせて実施 ② 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ・各長の組長や評議員と情報を共有 ③ 防災訓練 ・学区で年1回、全町で町ごとに年1回実施 ④ 安全パトロール（月10回） ⑤ 防犯パトロール ・散歩などをしながらの“ながら散歩”を実施 ・年末年始は期間を決めて実施 ⑥ 防犯カメラの設置（必要箇所を確認し、適宜増設） ⑦ あいさつ運動	2・3・5・6
6	隣近所であいさ つや声かけがで きる地域になる			

34 矢作北学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	13,134 人	5,265 世帯	16.6%	16.1%
令和 3 年	13,578 人	5,810 世帯	19.0%	15.3%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① 関連団体との連携強化	—	—	
		② 要支援者の隣近所への指導の強化	—	—	
		③ 支援を受ける側への説明の充実	—	—	
		④ 子育て支援バンビの会の P R	—	—	
		⑤ 若者世帯が増えている地区での子育て支援の充実	—	—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 町内・地域内の危険箇所の調査と開示	—	—	
		② 防災隊組織の固定化及び若返り	—	—	
		③ 町単位・学区単位での防犯・防災体制の強化	—	—	
		④ 役割分担の明確化	—	—	
		⑤ 防犯設備の充実	—	—	
3	学区福祉委員会の機能の強化	① 町単位での福祉活動の体制づくり	—	—	
		② 福祉委員の構成メンバーの見直し	—	—	
		③ 福祉委員会の仕組み・役割の勉強会の実施	—	—	
		④ 手当てや交通費等の検討	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

矢作北学区のめざす姿

おもいやりあふれる あたたかな地域 矢作北学区

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	ひとり暮らし高齢者等、支援を必要とする人の状況を把握している	見守り	① 見守り活動（年3回） ② 登下校の見守り活動（毎日） ・担い手の増加を検討	1 ・ 4
2	安心して活動に参加できる	交流	① 子育てサロン（年3回） ② 男の料理教室（年1回から年2回へ） ・参加者の増加 ③ 夏祭り（年1回） ④ グラウンドゴルフ大会（年2回） ・参加者の増加、学区福祉委員会として協力	1 ・ 2 ・ 3
3	多世代がより交流している	介護予防体操	① いきいきクラブ（月2回） ・学区福祉委員会として協力 ② ごまんぞく体操（週1回、1か所） ・歩いて行ける場所の確保、全町での均一な実施	1 ・ 2
4	安心安全な地域になる	広報・研修	① 研修会（年1回から年2回へ） ② 福祉だよりの発行（年2回） ・役員や委員へ配布し、活動内容を共有 ・学区全体へ回覧し、情報発信	2
		防災・防犯	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年2回） ② 防災訓練（年1回） ・内容の見直し ③ 安全パトロール（毎日） ・担い手の増加を検討 ④ 清掃活動（年1回） ⑤ 花壇づくりと管理（毎月）	3 ・ 4

35 矢作西学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	6,514 人	2,654 世帯	21.4%	14.4%
令和 3 年	6,428 人	2,820 世帯	24.1%	12.5%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① サロンの参加者の増加	—	—	
		② 移動支援の充実	—	—	
		③ 買い物支援の一環として、移動販売の検討	—	—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 青パト、安全パトロールの充実	—	—	
		② 災害時の組織づくり	—	—	
		③ 道路の危険箇所の把握	—	—	
		④ 自動車道と自転車道の識別	—	—	
		⑤ 子どもの通学路の徹底	—	—	
3	学区の活動への若い参加者の増加	① 活動への参加の呼びかけ	—	—	
4	福祉委員活動の充実	① 関係団体との連携強化	—	—	
		② 訪問者の基準の見直し	—	—	
		③ 福祉とボランティアのあり方の検討	—	—	
		④ 「向こう三軒両隣」の推進	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

矢作西学区のめざす姿

いつまでも安心して暮らせる地域 矢作西学区

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	高齢者が積極的に活動に参加できる	見守り	① 見守り活動（年6回） ・福祉委員・民生委員・老人クラブがそれぞれ実施 ② 登下校の見守り（毎日） ・PTAは朝、青色防犯パトロールは下校時中心 ・団体相互の協力体制について検討	3 ・ 4 ・ 5
2	参加者層が広がり、様々な活動ができる	サロン	① いきいきクラブ ・年10回実施（1月・8月は休み） ・広い会場への変更を検討 ② 子育てサロン（ペンギンクラブ）（月1回） ・あそびりテーション ③ 世代間交流（年2回） ④ めだかクラブ（月2回） ・パソコン教室	1 ・ 2 ・ 6
3	情報を把握し、支援ができる	買い物支援・移動支援	① 移動販売（週2回、拠点は市営住宅） ② あんくるバス ・増加している利用者数に応じた活用 ③ デマンド型乗り合いタクシー	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
4	つながりが強固になり支えあい・助けあいができる	広報・研修	① 福祉だよりの発行（年3回） ・電子掲示版への移行を検討 ② 研修会（年2回） ・福祉委員の研修1回・出前講座1回 ③ 電子掲示板の設置 ・学区情報・老人会の情報等	1 ・ 2 ・ 6
5	安心安全な地域になる	防災・防犯	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年1回） ② 防災研修会 ・レディースネットワークでは年2回実施 ③ 防災訓練（年1回） ④ 安全防犯パトロール（随時） ⑤ ふれあい花壇（老人クラブが月2回） ⑥ 清掃活動（町ごとで春・秋の年2回）	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5
6	組織体制が強化され、若い人も一緒に地域づくりができる			

36 矢作南学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	14,991 人	5,978 世帯	20.9%	14.9%
令和 3 年	14,990 人	6,415 世帯	22.9%	13.6%

資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

(2) これまでの取組

	第3次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	要支援世帯の把握と支援の充実	① 小地域サロンの交流活動の奨励・支援		—	
		② 企画の工夫による参加しやすい場づくり		—	
		③ 弱者に手を差し伸べる取組の継続・充実		—	
		④ 救急医療情報キットの配布対象者の拡大		—	
2	安心して暮らせる地域づくり	① 多世代交流が図れる活動の工夫		—	
		② 学区住民組織との相互連携の強化		—	
		③ 住民の理解・協力・参加を得る啓発活動の充実		—	
		④ 災害時避難行動要支援者制度の周知・見守り		—	
3	学区福祉委員会活動の強化とPR	① 福祉委員会活動や福祉サービスを住民に知らせる広報活動の工夫		—	
		② 参加者の増加に向けた参加型事業の周知方法の工夫		—	
		③ 高齢者や子どもが関わる組織・施設との連携強化		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

矢作南学区のめざす姿

地域でつなぐ福祉の“わ”（話・和・輪）
安心して心豊かに支え合うまち 矢作南学区

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	交流する機会が増え、活動が充実する	見守り	① 見守り活動（年2回） ・ こんにちわ訪問・友愛訪問 ② 登下校の見守り（町ごと） ・ ボランティアで年9回活動（一斉下校時）	3 ・ 4
2	移動手段が確保できる、身近に参加できる場所がある	子育て支援	① 子育てサロン「ペンギンクラブ」（年6回）	1 ・ 6
3	安心安全な地域になる	交流	① ふれあい昼食会（年1回） ・ 町ごとでひとり親会として実施を検討 ・ 会場の再考や送迎ボランティアの検討 ② 世代間交流 ・ ファミリー歩け歩け大会（年1回） ・ もちつき大会（年1回） ・ こども祭りに参加 ③ 小地域ふれあいサロン（11 か所、年2～12回）の拡大 ④ いきいきクラブ（年11回）	1 ・ 2 ・ 4 ・ 6
4	担い手が増え、活動が活発になる	防犯・防災	① 夜間防犯パトロール（年4回） ② 防災訓練（町ごと） ・ 5年に1回は学区全体で実施 ③ 災害時避難行動要支援者に対する支援方法の検討 ・ 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ・ 組長や班長、隣近所と連携し、支援体制を充実 ④ 救急医療情報キットの作成 ⑤ 清掃活動 ⑥ 声かけ運動	3
5	適切に情報が発信され共有されている			
6	感染症対策をした活動ができる	広報・研修	① 研修見学会（年1回） ② 福祉講座（年2回） ・ 開催方法の検討 ③ 福祉だよりの発行（年3回） ・ 医療機関等、配架先の検討 ④ Facebook の活用	2 ・ 4 ・ 5 ・ 6

37 北野学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	10,842 人	4,831 世帯	14.2%	14.6%
令和 3 年	10,530 人	4,923 世帯	18.3%	13.1%

資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

(2) これまでの取組

	第3次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① サロン活動の充実、近隣の集まりやすい場所での開催（安否確認も兼ねる）	—	—	
		② 趣味の団体を増やし、集まる機会を増やす	—	—	
		③ 災害時避難行動要支援者制度の周知	—		
		④ 助成金の柔軟な活用	—	—	
		⑤ 子どもが生まれた世帯の把握と祝い金の検討	—	—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 若い世代と継続的に繋がる仕組みづくり	—		
		② 世話役の確保	—	—	
3	関係機関との連携による学区における地域福祉の推進	① 福祉委員会のPRの工夫と充実	—		
		② 次代を担う人材の育成	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

北野学区のめざす姿

みんなが挨拶をし 地域活動に積極的に参加する 北野学区

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	安心安全な地域になる	見守り・訪問	① ひとり暮らし訪問（月1回） ・対象者の範囲・把握方法・支援者の検討 ② 赤ちゃん訪問 ③ 登下校の見守り（毎日） ・青色防犯パトロールとの連携 ・こども110番の旗の充実 ・後継者の育成	1
2	福祉に対する理解が深まり、意欲的に活動できる	世代間交流	① ふれあい交流会（未就園児と高齢者との交流） ・既存の活動同士での連携を検討 ② 子ども会活動の協力 ・夏祭りのみこしの見守り ・球技大会の応援 ・老人クラブとの連携 ③ フリーマーケット（野菜販売） ④ いちごばあちゃんの稲作体験（農作業・昔遊びの継承）	2
3	地域の移動手段が確保され、誰もが安心して移動できる	サロン	① 子育てサロン（バンビの会） ② そばうちサロン ③ 個人宅でのサロン活動（後継者を育成） ④ いきいきクラブ（内容や開催回数の検討） ⑤ ごまんぞく体操（開催場所の増設検討） ⑥ 編み物教室 ⑦ サロン活動 ・モデルとして実施し、他町への展開を検討	2
4	ごみ捨てに関して適切な場所・時間帯・分別方法の周知がなされ、気持ちよい環境になる	防犯・防災	① 防災訓練（年1回） ・町内で防災組織の立ち上げを検討 ② 防犯カメラの設置・増設（交差点を中心に） ③ ダミー看板の増設の検討 ④ 安全パトロール（週2～3回） ⑤ 災害時避難行動要支援者名簿の整理（随時更新） ⑥ 清掃活動（月1回、老人クラブ・子ども会等と連携）	1
		広報・研修	① 福祉だよりの発行（年3回） ② 研修会（年2回） ③ SNSの活用（Facebook・LINEの導入検討）	4
		高齢者世帯の生活支援	① 巡回バスの運行の検討 ・各町のルート・駐車場・バスの大きさの検討	1・3

38 六ツ美北部学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	11,846 人	4,752 世帯	15.1%	16.3%
令和 3 年	12,097 人	5,180 世帯	18.0%	14.9%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 福祉の対象から外れている人・高齢夫婦のみ世帯などの対象化の検討	—	—	
		② 井戸端会議などの小規模での学区活動の検討	—	—	
		③ 高齢者が参加しやすいよう、学区から町内行事への実施方法の検討	—	—	
		④ 高齢者の意見を踏まえた支援の実施	—	—	
2	安心して子育てが行える地域づくり	① 出産・子育て支援施設の充実	—	—	
		② 登下校時の見守り方法の工夫と充実	—	—	
		③ 子どもの家の活用と学校関係との協力強化	—	—	
3	学区福祉委員会活動の強化	① 福祉委員会としての活動を学区単位でなく、各町の福祉委員会としての活動の検討	—	—	
		② 「見たい」会報の充実とホームページ作成者の育成	—	—	
		③ 福祉委員会の P R ・周知方法の検討	—	—	
4	移動支援の充実	① 巡回バスの導入検討	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

六ツ美北部学区のめざす姿

みんながいつまでも元気に暮らせるまちづくり

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	様々な場所で活動が行われている	見守り	① 見守り活動 ・独居高齢者、災害時避難行動要支援者を対象に実施 ・実施する人や実施方法、活動内容を再検討	3
2	新規活動者が増えて活動が活発になる	サロン	① ふれあいの会（町ごとに年1回） ② 六北タンポポの会（年3回） ③ 六北いきいき大楽校（月1回） ・高齢者を対象に実施 ④ ふれあいトークの会（年2回） ・土井住宅・市民ホームにおいて 70 歳以上の独居高齢者を対象に食事会を実施、拡大も検討	1・2
3	安心安全な地域になる	広報・啓発	① 六北地域だより（福祉委員会・社会教育委員会・総代会）	2・3

39 六ツ美中部学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	5,386 人	1,825 世帯	26.5%	13.8%
令和 3 年	5,362 人	1,940 世帯	28.3%	13.0%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 歩いて行ける範囲の小地域でのサロン開催	—	—	
		② 各町サロン担当者間での意見交換	—	—	
		③ 他のサロン活動の見学実施	—	—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 総代と連携した防災活動の充実	—	—	
		② 隣近所とのコミュニケーション強化	—	—	
		③ 児童登下校の見守りの継続実施	—	—	
3	学区福祉委員会の体制の強化	① 関連団体との連携の強化・役割の分担	—	—	
4	多世代交流の充実	① 多世代が気軽に集まれる環境づくり	—	—	
		② 関連団体同士が連携した集いの開催	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

六ツ美中部学区のめざす姿

気軽に集い 気楽に話せる 関係づくり

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	新規参加者が増えて活動が活発になる	見守り	① 訪問見守り活動（月1回） ・福祉委員・老人クラブ・民生委員で連携	1・3
			② 登下校の見守り ・民生委員中心に登校時の活動を実施 ・活動者が増えるよう働きかけ	
		サロン	① サロン活動（町ごとに年3～10回） ・実施頻度増加を検討 ② いきいきクラブ（月1回） ③ 子育てサロン（年9回） ・民生委員中心に活動	1
2	他団体と緊密に連携が取れる	交流	① 世代間交流（年2回） ・子ども祭りの実施 ・老人クラブとして昔遊びを一緒に実践 ② 学区運動会（年1回） ③ コスモス祭り（年1回） ・碧の会主催、PTAが実施 ・今後福祉委員会として協働できるよう検討	1・2
			① 福祉だよりの発行（年2回） ・パソコンを得意とする人材を募集 ② 研修会（年2回） ・諸団体と合同で実施 ③ 意見交換会（随時） ・福祉委員役員の交流	
3	安心安全な地域になる	防災・防犯	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年2回） ・総代・民生委員・福祉委員が名簿登録者の訪問 ・登録内容（新規・変更・廃止等）の確認 ② 防災訓練（町ごとに年2回定期的に実施） ③ 清掃活動（各町での実施）	2・3

40 六ツ美南部学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	11,328 人	4,286 世帯	16.7%	15.0%
令和 3 年	11,347 人	4,552 世帯	20.7%	13.9%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 福祉に関する P R の実施		—	
		② 高齢者が参加しやすいように、小地域でのサロンの実施			
		③ 一人暮らしの方のサポート支援		—	
		④ 買い物難民の解消のため、巡回バス導入の検討		—	
2	新たな福祉課題を抱える人（ニート・引きこもり・生活困窮など）の把握と支援の方法について理解	① 中学生の引きこもりの対応として第三者が話を聞く、相談できる体制づくり			
		② 地域が協力して長い目で見守っていく		—	
		③ 公的機関につなげる		—	
3	活動の周知など、学区福祉委員会の認知度向上	① 活動の P R の工夫		—	
		② 研修会の開催など新しい取組の実施		—	
4	福祉委員活動の充実	① 担い手不足であるため、若い人材の発掘・育成			
		② 他の学区の情報の把握		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

六ツ美南部学区のめざす姿

挨拶・声掛けで、明るく・思いやりのある地域づくり

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	担い手が増え、 安心して活動が 継続できる	高齢者支援	① 見守り訪問活動 ・各種団体との連携拡大 ・激励訪問（年6回） ・友愛訪問（年1回） ・対象者の拡大、活動内容の検討 ② 移動手段の検討 ・ひとり暮らし高齢者のサポート支援の検討 ・巡回バス導入の検討 ③ 高齢者のニーズ把握 ・アンケートの実施検討	3・4
2	各団体の役割が 把握でき、緊密 に連携がとれる	交流	① 地域単位での交流活動 ・サロン活動（月3回） ・ごまんぞく体操（週1回、8か所） ・いきいき教室（月1回） ・茶話会（年1回） ・悠悠クラブ（月1回） ・子育てサロン（年6回） ・声かけを強化し、参加者の増加に努める ② 世代間交流 ・グラウンドゴルフ ・夏祭り ・秋のウォーキング ・六南小4年生との交流イベント	3
3	住民同士の交流 機会が増え、地 域が活性化する	防災・防犯	① 各種団体との連携 ・防災訓練（年1回） ・安全パトロール・青色パトロール（各町） ・清掃活動（各町） ② 登下校の見守り活動（月1回） ・活動頻度の検討	2・3
4	移動手段が充実 している	広報研修	① SNSの活用 ・Facebook の更新 ・公式LINEアカウントの活用 ② 研修会 ③ 健康講座	5
5	誰もが活動内容 を知っている	人材育成・ 発掘	① 福祉活動における人材育成 ・幅広い世代の人材発掘 ② 福祉委員会組織の強化 ・女性委員、役員の増加検討 ・各町幹事の役割の強化検討	1

41 六ツ美西部学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	11,652 人	4,537 世帯	15.5%	16.5%
令和 3 年	11,847 人	4,894 世帯	18.0%	15.3%

資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

(2) これまでの取組

	第3次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援を必要とする高齢者の把握と支援の充実	① 要支援者と支援する人の明確化			
		② 条件を設定せず、本当に見守る必要のある人を把握し、支援につなげる			
2	安心して子育てが行える地域づくり	① 安心・安全な場所と人の提供		—	
		② 登下校の見守り活動の組織づくり（PTA、子ども会との連携）			
3	新たな担い手の確保など、学区福祉委員会の強化	① 計画的な人材の確保		—	
		② 福祉委員の行う活動の明確化		—	
		③ 学区福祉委員会の役員の任期の検討		—	
		④ 福祉に関する勉強会の実施			
		⑤ 同じような活動内容の統一化		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

六ツ美西部学区のめざす姿

**みんなで支え合い・助け合う
安心・安全なまち 六ツ美西部学区**

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的にに取り組むこと	関連する No.(★)
1	新規活動者が増えて活動が活発になる	見守り	① 見守り活動（年10回） ・75歳以上のひとり暮らし高齢者、高齢者世帯を対象に実施、見守りを必要とする人の洗い出し ・内容や支援者の負担軽減を検討 ・ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯のリスト化、福祉委員・民生委員での共有や連絡先の明確化 ② 登下校時の見守り（朝に加え夕方も実施）	4
2	活動の内容が増え、充実する	健康・体操	① 健康サロン（各町で年3～4回） ② ごまんぞく体操（全町で実施） ③ グラウンドゴルフ（全町で実施） ④ ウォークラリー（年1回） ⑤ 健康講座（年2回）	1・2
3	情報を把握し、共有できる	交流	① 世代間交流（昔遊び・バケツ稲作・稲刈り） ② パソコンクラブ（小学生対象に年12回） ③ 読み聞かせ（年24回） ④ 子育てサロン（主任児童委員中心に年5回） ⑤ いきいきクラブ（年11回） ・老人クラブの参加、作品展（リブラ） ⑥ 70歳以上のひとり暮らし高齢者との食事会 ・各町で年1回、予算の見直し検討	1・2
4	安心安全な地域になる	広報・研修	① 福祉だよりの発行（年4回） ・活動報告に加え役に立つ情報や今後の情報を掲載 ② 研修会（社教委員も対象に入れる） ③ 六西福祉を考える会（月1回） ・テーマを明確に具体的な活動につなぐ	3
		防災・防犯	① 防災訓練（各町で年1回） ・地震や水害等、自分ごととして捉えられる内容を検討 ② 安全パトロール（毎日） ③ 清掃活動（各町で年3回） ④ 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ・字別に支援できるよう整理 ・SOSを自ら発信できる方法を検討 ⑤ 個別台帳の作成（町や総代中心で実施）	1・2・4

42 豊富学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	4,337 人	1,437 世帯	27.4%	13.2%
令和 3 年	4,069 人	1,506 世帯	32.3%	11.7%

資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

(2) これまでの取組

	第3次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援が必要な高齢者の把握と支援の充実	① 新規転入者も含めた高齢者の現状把握		—	
		② 正確な情報の一元化と支援者間の共有		—	
		③ 高齢者、地域、見守りなど支援者間の関係づくり		—	
2	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① 支援センターなど交流の場の活用		—	
		② 民生児童委員による身近な相談機会の充実		—	
		③ 多世代にわたる子育て支援の機会		—	
3	若い世代の学区福祉委員会への加入促進	① 若い世代や子どもがいる親世代にも関心を持てる行事の計画		—	
		② 福祉委員の定年制導入や任期の設定による委員の若返りの検討			
4	福祉委員会の活動内容のPRが必要	① 総代会、社教委員会等を通してPR		—	
		② 行事、講演を行う時に、住民に周知する		—	
		③ 広報誌を活用したPR		—	
5	活動の指導者、予算、情報のネットワークづくりが必要	① 他の学区の行っている行事の把握		—	
6	活動への参加手段（交通手段）が不十分である	① マイカーの相乗りを行うなどを検討		—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

豊富学区のめざす姿

**隣近所を気遣い地域みんなで支え合う
きずなたくさん 豊富学区**

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	若い世代にも理解が広まり、安心して活動を継続できる	見守り	① 見守り活動（月1回の訪問活動） ・訪問せずとも自宅等からの見守りを意識づけ ② 子どもの見守り（毎日登下校時） ・夜間のパトロール（夏休み期間中）	4
		介護予防・ 体操	① いきいきクラブ（月1回、6か所） ② ごまんぞく体操（週1回、5か所）	1・4
2	若い参加者も増え様々な活動ができる	交流	① サロン活動 ② 世代間交流（年3回） ・保育園・小学校・中学校との交流 ・餅つき大会・田植え・稲刈り・草刈り・昔遊び ③ いきいき交流会（5月・11月の年2回） ・参加していない人に対する呼びかけ ④ ボランティア入門講座 ・若い世代の参加促進へ向けた声かけ ⑤ 子育てサロン ・社協額田支所と連携 ・玩具道具の運搬・保管場所の確保 ⑥ 参加者送迎の検討	1・2・4
3	適切に情報が共有できている	広報・研修	① 研修会（年1～2回） ・市や社協等の研修に積極的に参加 ② 福祉だより「手つなぎ」の発行（年2回） ③ 福祉委員会のチラシ作成 ④ 周知方法の検討 ・防災無線に替わる情報伝達のための方法（スマートフォンやLINE、電話、FAX等）を検討	1・3
4	見守る人が増え、高齢になっても安心して過ごすことができる	防災・防犯	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ② 防災訓練（年1回） ③ 安全パトロール ・総代・民生委員・福祉委員で実施 ・散歩している人も気づいたら気軽に連絡できる仕組みづくり ・子どもの見守り活動の実施	3・4

43 夏山学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	730 人	301 世帯	39.9%	8.8%
令和 3 年	683 人	324 世帯	47.6%	7.0%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者（特に男性）の社会参加の促進	① 現在実施している活動間の連携	—	—	
		② 福祉委員会の世代交流会の充実	—	—	
		③ 見守り訪問の実施方法の検討	—	—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 災害時に支援を必要とする方を日頃の近所づきあいで把握し、より実効性のある防災体制確立のために関係者と協議を行う	—	—	
		② 子どもの登下校の見守り隊を全ての地区で実施	—	—	
		③ 子どもに通学路の危険箇所について周知	—	—	
3	新たな担い手の確保など、学区福祉委員会の体制強化	① 担い手の報酬制や有償ボランティアの検討	—	—	
		② 福祉委員の新たな人材の確保	—	—	
4	夏山小学校の存続	① 学校施設の有効活用	—	—	
5	高齢化率第 2 位	① 高齢者支援の充実	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

夏山学区のめざす姿

子どもやお年寄り、若者も安心・安全に暮らせる地域づくり

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	担い手が増えて 活動が活発になる	防災	① 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年1回） ・団体間で要支援者の情報共有を行う機会を設置 ② 小単位での防災訓練（年1回集落ごとに実施） ・地形に応じた災害時の対応方法等を確認・検討	1
		見守り	① 高齢者の見守り活動（年4回） ・感染症対策を講じながら、ひとり暮らしの人に対する訪問を実施 ② 登下校の見守り（毎日） ・PTAだけでなく多世代で見守る体制を構築 ・危険箇所の把握 ・自宅付近での“ながら見守り”の実施	1
2	学区福祉委員会の理解が深まり、組織力が向上する	広報	① 福祉だより（年2回） ・移動スーパーやサロン活動の周知 ・認知度向上や活動参加者の増加	1・2
		サロン	① 子育てサロン（年5～6回） ・実施回数の増加を検討 ② ミニデイサービス（月1回、4か所） ③ ごまんぞく体操（週1回） ・参加者の健康維持、交流の場として継続	1・3
3	感染症対策を講じた活動を行う	交流	① 世代間交流会（年2回） ・ホタル鑑賞会・鮎つかみ大会・グラウンドゴルフ等 ・老人クラブとの連携 ② 高齢者との食事会（年1回） ・バスを活用した研修会等の実施 ③ 小学校、公民館の清掃活動（年4回） ・老人クラブとの連携 ④ 盆踊り（年1回） ・各種団体（総代会・PTA・社会教育委員会等）と連携し、学校施設を活用 ・学区福祉委員会も企画・運営の一部を担う	1・3

44 宮崎学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	1,255 人	507 世帯	41.6%	6.6%
令和 3 年	1,104 人	501 世帯	47.1%	5.9%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	高齢者支援のさらなる充実	① 移動支援の充実	—	—	
		② 高齢者の身近な困り事・不安について、若い世代も含めた周囲の人に伝え、話しあう	—	—	
		③ 歩いていける範囲の小地域での集いの場の充実	—	—	
		④ 隣近所とのコミュニケーションの充実	—	—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 関連団体との連携強化	—	—	
		② 災害時避難行動要支援者の支援体制の強化	—	—	
		③ 防災マップの充実	—	—	
		④ 高齢者同士の助けあいの体制づくり	—	—	
3	他団体と連携など、学区福祉委員会活動の強化	① 「お節介なおばさん」の増加	—	—	
		② 老人クラブによる見守り隊の周知	—	—	
		③ 福祉イベントの充実	—	—	
		④ 関連団体との連携強化	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

宮崎学区のめざす姿

笑顔で楽しく暮らせる地域づくり 宮崎学区

＜理想の地域像と、そのための具体的な活動＞

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	各団体が適切に 役割分担を行い 連携できる	見守り 支援	① 見守り活動（年2回） ・フォロー体制の構築（組長・新聞配達員との連携） ・民生委員の周知 ・困った際の連絡手段のルール化 ② ひとり暮らし高齢者世帯の訪問（適宜） ③ 困りごと請負活動（ワンコイン活動） ④ お助け隊（各町） ・石原：年6回、大雨河・千万町：不定期	1・2
2	移動手段が確保 され、安心して 外出できる	交流	① ひとり暮らし高齢者との食事会（老人クラブで年1回） ② 世代間交流（小学校で年4回） ③ 敬老会と学区運動会（社会教育委員会主体で年1回） ④ サロン活動（月1回）	1・3
3	参加者が増えて 活動が活発にな る	防犯・ 清掃	① 交通安全週間の啓発活動（年4回） ② 声かけ、パトロール（月5回） ③ 防犯カメラの設置（必要に応じて増設） ④ 清掃活動（草刈り等、年2回） ⑤ 学区外のサイクリストと協働でゴミ拾い ・宮崎まちづくり協議会と学区福祉委員会が連携	1
4	活動環境が整い 活動しやすくな る	防災	① 防災訓練（年1回） ② 災害時避難行動要支援者名簿の整理 ③ 消防団夜警（年2回） ④ 民生委員との情報共有 ・役割や支援内容の明確化 ⑤ 避難所の確認（適宜）	1・3・4
		・介護 ・体 ・防 ・予 ・保 ・健	① 命の貯蓄体操（週1回） ② JAあさひの会（ミニデイサービス、月1回） ③ ごまんぞく体操（週1回） ・全地区での実施をめざす	3
5	転入する若い世 代が多くなって いる	子育 て 支 援	① 登下校の見守り（毎日） ② 子育てサロン（年3回） ③ 自然体験事業 ・宮崎保育園・宮崎まちづくり協議会と協働	1・5
		広報・ 研 修	① 広報「きずな」の発行（年2回） ② 研修・講演会（2年に1回） ・「ふくまど」と連携し、講座等の開催を検討	1

45 形埜学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	1,354 人	446 世帯	36.0%	10.6%
令和 3 年	1,233 人	470 世帯	40.1%	9.1%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援が必要な高齢者の把握と支援の充実	① 関連団体による情報収集と更新、共有	—	—	
		② 隣近所とのコミュニケーションを図る	—	—	
		③ 地区の福祉活動への関心を高める	—	—	
2	支援を必要とする世帯の把握と子育て支援の充実	① 園庭の解放など、保育園の有効活用の検討	—	—	
		② 夏休みの見守り体制の強化	—	—	
3	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 地区の防災訓練への参加促進	—	—	
		② 町内、通学路にある危険箇所の把握	—	—	
		③ 防犯設備等の充実	—	—	
4	福祉委員活動の充実	① 各地区に委員会の設置	—	—	
		② 参加者の増加	—	—	
		③ 福祉委員活動の P R の強化	—	—	
5	移動支援の充実	① 移動バスの検討	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

形埜学区のめざす姿

誰もが住みたい 魅力あるまち

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	活動の回数や参加者、担い手が増えて活発になる	見守り	① 登下校の見守り（登校日は毎日） ・見守り隊の後継者の確保 ・自宅付近での見守りや同行 ② 高齢者の見守り活動（年6回） ・対象者：75歳以上のひとり暮らし高齢者	1 ・ 2 ・ 3
2	地域全体を把握できる	交流	① 世代間交流 ・保育園・小学校・子ども会（3回） ・親睦会・3世代交流・ウッドカーリング ② ひとり暮らし高齢者との食事会（年1回） ・男性にも参加してもらえるよう声かけ ③ あさひの会デイ（月1回、2か所） ④ サロン活動（月1回、3か所） ⑤ 子育てサロン（月1回） ⑥ おしゃべりサロン（月1回） ・交流への参加を必要とする人の早期発見、活動の参加につなげる声かけ	1 ・ 2 ・ 3
3	誰もが住みたいまちになる	防災	① 防災訓練（各地区で年1回） ・市の訓練は5年に1回 ・消防団と協力して実施 ② 災害時避難行動要支援者名簿の活用 ・総代会長は学区全体、町総代は各町、民生委員は担当地区の名簿をそれぞれ持ち対応	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4
4	避難場所が確保され安心して暮らすことができる	広報	① 福祉だよりの発行（年3回） ・小学校と連携 ② 福祉マップの更新（2年に1回）	1 ・ 2 ・ 3
		福祉について 学ぶ場	① 福祉講演会（年1回） ・予算と相談しながら企画、対面で開催 ② 研修会（年1回）	3

46 下山学区



(1) 学区の概況

	人口	世帯数	高齢化率	年少人口割合
平成 28 年	645 人	247 世帯	38.0%	7.4%
令和 3 年	618 人	281 世帯	44.0%	6.6%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) これまでの取組

	第 3 次計画における課題	取り組むこと	学区の評価		
			H30	R 1	R 2
1	支援が必要な高齢者の把握と支援の充実	① 関連団体、隣近所と連携した一人暮らし世帯の把握	—	—	
		② 見守り訪問の実施	—	—	
		③ 移動支援の充実	—	—	
		④ サロン活動の充実	—	—	
2	誰もが安心して暮らせる、防犯・防災体制の強化	① 安全・安心な道路整備	—	—	
		② 道路の草刈り、防犯灯の増設、防犯カメラの設置・増設の安全対策の実施	—	—	
3	学区福祉委員会活動の推進とPR強化	① 女性委員の増加	—	—	
		② 福祉委員会のPRの強化	—	—	
		③ 活動資金の確保	—	—	

(3) 今期の計画（令和4年度～令和8年度）

下山学区のめざす姿

**互いに協力し合い
世代を超えた地域活動がさかんなまち 下山**

<理想の地域像と、そのための具体的な活動>

No. (★)	理想の地域像	活動	令和8年度までに、 理想の地域像の実現に向けて具体的に取り組むこと	関連する No.(★)
1	指導者が確保されて活動が活発になる	移動支援	① リフトカーボランティア（月1回）	3・5
2	世代間交流が充実し世代を超えて顔見知りが増える	交流	① ひとり暮らし高齢者との食事会（年1回、1か所） ② サロン活動（月1回） ・3か所（保久・一色・外山）で実施 ③ いきいきクラブ（月1回、3か所） ④ 世代間交流（年2回） ・小学校の行事に合わせて実施	1・2・5
3	リフトカー運転手が確保される	防災	① 防災訓練（年1回） ② 災害時避難行動要支援者名簿の整理（年1回） ・マップの作成	5
4	通学路が整備され、学区民が安心して通行することができる	広報・研修	① 福祉だよりの発行（年4回） ・下山小学校の山桜に掲載、小学校との連携 ② 研修会（年1回） ・福祉に関連する施設等の視察研修の実施	2・3・5
5	支援が必要な人を把握し、誰一人取りこぼさず見守ることができる	見守り	① 高齢者の見守り活動（年4回） ・対象者宅の訪問 ② 登下校の見守り（年3回） ・交通安全週間に合わせて実施	4・5
		防犯	① 防犯灯の整備 ② 清掃活動（年1回） ・通学路の草刈り	4

第4次岡崎市地域福祉計画

－実践編－

発行：岡崎市／社会福祉法人 岡崎市社会福祉協議会
編集：岡崎市 福祉部 ふくし相談課

〒444-8601

愛知県岡崎市十王町2丁目9番地

電話 0564-23-6774

社会福祉法人 岡崎市社会福祉協議会

〒444-0802

愛知県岡崎市美合町五本松 68 番地 12

社会福祉センター3階

電話 0564-47-8751

発行年月：令和4年3月



この計画は施策編・実践編で分冊になっています。
施策編はこちらの URL よりご覧ください。